

Multi File Screen Editor
MIFES[®]
for Linux
ユーザーズマニュアル

はじめに

このたびは「MIFES for Linux」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
「MIFES for Linux」は Linux のコンソール上で動作するマルチスクリーンエディタです。
本製品を正しくご利用いただくために、このマニュアルをお読みください。
また、本書は大切に保管してください。ご使用中に操作や設定などでわからないことが生じたときに、きっとお役に立ちます。

おことわり




本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、固く禁じられています。
本製品の内容は、予告なしに変更することがあります。
本書の内容は、本製品の改良のため、将来予告なく変更することがあります。
本書の内容については万全を期して制作しておりますが、万一わかりにくい点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、メガソフトサポートセンターまでご連絡ください。
(本書の内容と現実が異なるときは、現実が本書に優先します。)

本マニュアルの表記について

表記例

表記の例	説 明
【ファイル】メニュー	メニュー名やコマンド名は【 】で囲んであります。
[はい] [ON]	ウィンドウ内の表記や選択項目は[]で囲んであります。
① ② ③...	操作手順の順番を表しています。
[F1] [Shift] []	キーボードのキーは[]で囲んであります。
[Ctrl] + [Y]	2つのキーが「+」で結ばれているときは、最初のキーを押しながら次のキーを押します。

本書で使用するアイコン

表記の例	意 味	説 明
	メ モ	補足事項を説明しています。
	注 意	ご使用にあたっての注意事項を記載しています。
	参 照	関連情報が記載されているページを示しています。

機能紹介

MIFES for Linux は、Linux のコンソール上で動作する最大 100 ファイル、200MB まで編集可能な高機能な日本語対応テキストエディタです。

Windows 版 MIFES の機能を数多く搭載し、コンソール上でのキーボード操作に適した DOS 版 MIFES の画面や操作性を採用しました。

Linux 上のさまざまなテキスト処理の作業効率をアップすることができます。

ベストセラーエディタの機能と使いやすさを継承

スクリーンエディタのスタンダード

MIFES は 1985 年の登場以来、プログラム開発の編集ツールとして、軽快な文書編集の道具として、テキスト処理の文化を支えてきた、日本で最も長い歴史と利用実績を誇るスクリーンエディタです。

MIFES の基本設計、操作性を継承

Linux の vi や Emacs 系のエディタは、DOS や Windows に慣れたユーザーは戸惑う面が多くあります。MIFES for Linux は、DOS や Windows で培われた基本設計、操作性を継承しており、MIFES ユーザーはもちろん初めての方にも使いやすいエディタとなっています。

最大 100 ファイル、合計 200MB まで編集可能

複数のファイルを一度に選択して開くことができ、扱えるファイル数、サイズも十分なマルチファイルスクリーンエディタです。画面を水平または垂直に分割して、2 つのファイルを同時に表示できます。

DOS 版 MIFES の画面や操作性を継承

使いやすさと高機能で圧倒的な実績を誇る DOS 版 MIFES の画面や操作性をできるだけ採用。DOS 版 MIFES を使用したことのあるユーザーならば迷わず使用できます。

Windows 版 MIFES の新しい機能を装備

キーワードの明示、文字コードの自動変換、UNDO/REDO、多重バックアップ、オープン時のジャンプ、ファイル名履歴など、Windows 版 MIFES の機能を豊富に装備しています。

ユーザーの声に応えた機能と安定性

開発にあたり長期間のベータ版公開を実施。ユーザーニーズを反映し、広範囲なフィールドテストで高い安定性を実現しました。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

スピーディーなファイルオープン

多機能で探しやすいファイル選択画面

最大 20 ファイルを一度に指定して開くことができます。各種ソート、1 列 / 4 列表示の切り換えが可能で、ワイルドカードやディレクトリの登録もできます。

内容をすばやく確認できるプレビュー機能

目的のファイルでスペースキーを押せば、その先頭部分の内容を表示。さらに約 4 K バイト分までをスクロールして見ることができます。

便利なファイル検索機能を搭載

ファイルの場所や名前がわからない場合に、ワイルドカードも使用できるファイル検索機能を用意しました。

ファイル名を補完するように検索

タブキーを押せば、入力されている文字列で始まるファイルにカーソルが移動。ファイル名を途中まで入力して、すばやく目的のファイルに到達できます。

編集ファイル名の履歴を表示

開いたファイルの履歴を記録して表示する機能を搭載しました。

最終編集位置に自動ジャンプ

ファイルを開いた直後に最後の編集位置に自動的にジャンプ。速やかに編集作業を再開することができます。

充実の編集 & 検索

高度で柔軟な検索 / 置換機能

通常検索、ワイルドカード検索、正規表現検索、あいまい検索、の 4 種類の検索方法を用意。単純な文字列から複雑なパターンまで、自由度の高い検索が可能です。

強力なグローバル検索機能

指定ディレクトリ内にあるファイルの特定の文字列を検索し、検索結果を書き出すグローバル検索機能を搭載。タグジャンプ機能で目的のファイルの行へジャンプできます。

便利な箱型でのカット & ペースト

行、文字列に加えて箱形カット & ペースト機能を搭載しています。

定型処理を自動化するキーボードマクロ

キーボード操作を記憶して定型処理を効率化するキーボードマクロ機能を搭載。記憶した操作は英字バッファへ登録することができます。

文字列の英字バッファ登録

指定した英字バッファ内の文字列をカーソル位置に挿入します。

UNDO/REDO 機能

何回でも戻れる UNDO/REDO 機能を搭載しています。

生産性を高める多彩な機能

便利なファイル比較

スプリット表示中の2つのファイルに対して、現在のカーソル位置からファイルの最後尾方向に向かってファイル内容を比較します。

文字コードを変換するプリポストプロセッサ

ファイルの読み込み / 書き込み時に文字コード変換を行うプリポストプロセッサ機能を装備。Shift-JIS、Unicode、Unicode Big endian、EUC、JISコード、UTF-8、Macintoshの文字コードの変換が可能です。通常は自動判別にしてオープンし、文字コードを意識せずに編集できます。

キーワードの明示機能を装備

ファイルの拡張子ごとに設定されたキーワードやコメントを色を変えて表示します。C言語、HTML、JavaScript、Perl、PHP、Java、VBScript、SQL、Rubyなどのキーワードを標準で用意しました。

バックアップファイルの設定が可能

バックアップを作成する設定の場合のファイル名を、拡張子変更か、元のファイル名に.bakを追加するか選択可能です。履歴は最大9世代前まで残せます。

実行可能なキー操作の一覧表示

現在のカスタマイズでのキーへの機能の割り当てを一覧で見ることができ、さらに選択してそのままその機能を実行することができます。

Linux 環境で快適動作

Telnet 端末で起動

コンソールタイプのエディタなので、全画面や XWinndow 上の端末はもちろん、Windows 上のターミナルからの起動も可能です。

英語モードを搭載

日本語漢字端末でない設定の環境では、自動で英語モードで起動します。

カスタマイズが可能

キー、メニュー、カラー、明示キーワード、文字コードの設定などの変更が可能です。ユーザーの好みや、環境にあわせてエディタをつくりこんでいけます。

画面サイズをコンソールにあわせ自動変更

端末の画面サイズが変更された時には、MIFES も自動的にそれに追従します。

フロッピーでも起動可能

本体は約 400K バイトのファイル 1 つで、これだけでエディタとして使用可能。FD に用意しておけば、緊急時にも対応できます。

その他にも、便利な機能を数多く搭載しております。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

もくじ

はじめに・おことわり	i
本マニュアルの表記について	ii
機能紹介	iii
もくじ	vi
第 1 章 ご使用になる前に	1
動作環境	2
インストールと実行	3
インストール	3
実行とライセンスキーの入力	5
第 2 章 基本操作	7
起動時コマンドラインの指定	8
ファイル名を指定する	8
複数ファイルを指定する	8
行番号を指定する	8
ディレクトリ名を指定する	8
ワイルドカードで指定する	9
起動時オプション	10
メニュー選択時のキー操作	14
一般のメニューのキー操作	14
【表示 & 動作状態の設定】メニュー、	
【その他の動作状態の設定】メニュー、	
【その他の環境の設定】メニューのキー操作	15
ファイル名の入力画面におけるキー操作	16
入力枠にファイル名を入力する	16
ファイル名一覧からファイル名を選択する	16
プリプロセッサを切り換える	17
参照専用の設定を切り換える	17
ファイル名一覧を表示している	
ワイルドカードを登録する	17
ファイル名一覧を表示している	
ディレクトリを登録する	17
ファイル名選択マークを消去する	17
ファイル名を検索する	18
ファイル名の並べ替え方法を切り換える	18
ファイル名一覧の表示方法を切り換える	19
登録ワイルドカードを呼び出す	19
登録ディレクトリを呼び出す	19
ファイル名カーソルを 1 行移動する	19
ファイル名カーソルを移動する	20
ディレクトリ、ファイルを選択する	20
ファイル名選択カーソルを消す	20
ファイル名入力画面のキャンセル終了	20
ファイル内容をプレビュー表示する	20
ファイル名を補完するように検索	21

第 3 章	設定	23
	表示 & 動作状態の設定	24
	「表示 & 動作状態の設定」の操作方法	24
	表示に関する設定	25
	行ゲージの表示	25
	桁ゲージの表示	25
	改行文字の明示	25
	ハードタブの明示	25
	全角スペースの明示	26
	[EOF]マークの明示	26
	変更のある行の明示	26
	カーソル行アンダーライン	26
	画面内の対応括弧の明示	26
	行ゲージの表示桁幅	26
	ハードタブ桁幅	26
	折り返し桁幅	26
	動作に関する設定	27
	オートインデント	27
	行端でのカーソル停止	27
	フリーカーソルモード	27
	ソフトタブ動作	27
	キーリピート時の移動速度	28
	スクロールマージン行数	28
	標準の改行形式	29
	保存時に変更行マークを消去	30
	参照専用でも変更操作を許可	30
	その他の環境の設定	31
	「その他の環境の設定」の操作方法	31
	「その他の環境の設定」項目について	32
	[Page Up] / [Page Down] 動作 1 回での移動量 ..	32
	キーボードマクロの英字バッファ登録	32
	ファイル読み込み時の自動コード判定	33
	グローバル検索時の自動コード判定	34
	ファイルを開いた際の自動的なジャンプ	34
	ファイル保存時に標準の改行形式に変換	34
	画面スプリットの形状	35
	ファイル比較時の空白と改行の無視	35
	ファイル名検索時の半角大文字・小文字	35
	ファイル名一覧での複数ファイル選択	36
	起動時から上書きモードにする	36
	起動時に前回のファイルを自動的に開く	36
	起動時に新規ファイルを自動的に開く	36
	終了時のカットバッファ・ファイル削除	37
	バックアップ・ファイル名の拡張子	37
	バックアップ・ファイルの作成方法	38
	バックアップ・ファイルの多重度	38

カスタマイズ	39
カスタマイズ用のファイルについて	39
カスタマイズ用ファイル	39
変更方法について	39
「mi.config」ファイルの書式	40
第4章 検索と置換	43
検索と置換の操作について	44
「検索方法」と検索文字列・置換文字列の設定方法	46
各検索方法の特長	46
通常検索	47
ワイルドカード検索	48
正規表現検索	49
あいまい検索	51
第5章 プリ/ポストプロセッサ	53
プリプロセッサとポストプロセッサ	54
自動設定	55
Shift-JIS ファイル	55
Unicode ファイル	56
Unicode Big endian	56
EUC ファイル	57
JIS コードファイル	57
UTF-8 ファイル	58
Macintosh ファイル	58
第6章 各機能の解説	59
機能番号一覧について	60
機能番号一覧	61
0：無操作	61
1：1 語後方 () に移動	61
2：行の端に移動	61
3：半画面または1画面分 方向に移動	61
4：1 文字右 () に移動	61
5：1 行上 () に移動	61
6：1 語前方 () に移動	61
7：1 文字を削除 (削除文字スタックへ)	61
8：直前の1文字を削除 (削除文字スタックへ)	62
9：タブを挿入/次のタブストップ位置に移動	62
10：行削除スタックから挿入	62
11：行末までを削除 (削除文字列バッファへ)	62
12：削除文字列バッファから挿入	62
13：改行文字の挿入 / カーソル位置の改行	62
14：指定の機能番号を実行する	63
15：キーボードマクロ定義の開始、終了	63
16：削除文字スタックからカーソル位置に挿入	64
17：対応する括弧を検索	64
18：半画面または1画面分 方向に移動	64
19：カーソルを1文字左 () に移動する	64
20：1 語を削除 (削除文字スタックへ)	64
21：行頭から削除 (削除文字列バッファへ)	64
22：指定した文字コードを入力する	64
23：挿入 / 上書き状態の切り換え	65
24：1 行下 () に移動	65
25：カーソル行を削除	65
26：U N D O	65
27：R E D O	65
28：半角英小文字を大文字に変換して移動	65
29：半角英大文字を小文字に変換して移動	65
30：タグジャンプ	66
31：ファイルを挿入	66
32：ファイルを開く	66
33：ファイルを保存する	66
34：ファイルを閉じる	67
35：ファイルを保存して閉じる	67
36：ファイルを開き直す (編集のやり直し)	67
37：ポストプロセッサを確認 / 変更	67
38：名前を付けて保存する	67
39：すべてのファイルを閉じる	67
40：すべてのファイルを保存して閉じる	68
41：行番号へジャンプする	68
42：バイト位置へジャンプする	68
43：先頭にジャンプする	68

44 : ファイルの最後尾にジャンプする	68	75 : 【その他の動作状態の設定】メニューの表示	76
45 : 元の位置に戻る	68	76 : 画面のスプリット形状を環状に切り換え	76
46 : 行マーク	69	77 : カーソル行を二重化する	76
47 : 文字列の検索 (方向)	69	78 : グローバル検索を実行	77
48 : 文字列の検索 (方向)	69	79 : シェル・エスケープ用のファイルを開く	78
49 : 方向に再検索	69	80 : 1 文字の挿入 / 上書き	78
50 : 方向に再検索	69	81 : キーボードマクロの実行	78
51 : 文字列の連続置換	70	82 : 英字バッファの呼び出し / 文字列の登録	78
52 : 連続置換の再実行	70	83 : 変更のある行を 方向に検索	79
53 : ファイル名の履歴をメニュー表示する	70	84 : 直前に編集していたファイルに移動	79
54 : 行単位での範囲選択	71	85 : 行ゲージの表示 / 非表示の切り換え	79
55 : 文字列単位での範囲選択	71	86 : 桁ゲージの表示 / 非表示の切り換え	79
56 : 範囲選択を切り取る	71	87 : 方向に高速スクロール	79
57 : 範囲選択をコピー	72	88 : 方向に高速スクロール	79
58 : 行カットバッファの内容を挿入	72	89 : マニュアル・ファイルを参照専用で開く	80
59 : 文字列カットバッファの内容を挿入	72	90 : カーソルを行の左端に移動	80
60 : 新規作成のファイルを開く	72	91 : カーソルを行の右端に移動	80
61 : 画面全体の再表示	72	92 : 生のキー入力コードを出力	80
62 : メニュー1 の呼び出し	72	93 : 箱型単位での範囲選択を開始 / 中止	80
63 : メニュー2 の呼び出し	72	94 : 箱型カットバッファの内容を挿入	80
64 : メニュー3 の呼び出し	73	95 : 箱型カットバッファの内容を上書き	81
65 : メニュー4 の呼び出し	73	96 : 箱型カットバッファの内容を挿入	81
66 : メニュー5 の呼び出し	73	97 : 現在位置からファイル比較を実行	81
67 : メニュー6 の呼び出し	73	98 : 次の行頭からファイル比較を実行	81
68 : メニュー7 の呼び出し	73	99 : ライセンスキーを追加	81
69 : 【キー操作の一覧】メニューの表示	74	120 : 2 ストロークキー操作その 1	82
70 : 【表示 & 動作状態の設定】メニューの表示	74	121 : 2 ストロークキー操作その 2	82
71 : 【その他の環境の設定】メニューの表示	74	122 : 2 ストロークキー操作その 3	82
72 : 開いているファイル名の一覧の表示	75	123 : 2 ストロークキー操作その 4	82
73 : 適用したい拡張子定義の指定	75	124 : 2 ストロークキー操作その 5	82
74 : 明示したいキーワード定義の指定	76	125 : 2 ストロークキー操作その 6	82

付録..... 83

体験版について	84
ライセンスキーについて	84
ユーザーサポートについて	84
使用許諾について	84
ライセンス販売のご案内	85
アカデミックパック	85

第 1 章

ご使用になる前に



この章では、動作環境、インストールなど、MIFES for Linux をご使用になる前にご確認し、実行していただきたいことを説明します。また、起動の方法についても説明します。

動作環境

MIFES for Linux の動作環境は次のとおりです。
ご使用になる環境をご確認の上、インストールを行ってください。

OS およびコンソール	Linux のコンソール
本体	PC/AT 互換機 (Pentium 以上)
ハードディスク	2MB 以上の空き容量が必要



動作確認済みディストリビューションやコンソールなどの最新情報は、弊社ホームページをご参照ください。

<http://www.megasoft.co.jp/milinux/spec.html>



- ・コンソール上で動作するので、マウスによる操作はできません。
- ・入力できないキーがある場合は、MIFES でもそのキーは利用できません。

インストールと実行

インストール

MIFES for Linux の各ファイルを、コンピュータの指定ディレクトリにコピーしていただくだけで、インストールできます。

インストーラは付属していません。

また Linux 側のシステムの設定を変更する必要は特にありません。

1

MIFES for Linux のファイルの一覧です。

ダウンロードした場合は解凍すると、下記のファイルができます。

パッケージの場合は、CD - ROMに収められています。

mi	プログラム本体
mi.txt	マニュアル・ファイル (EUC ファイル)
mi.pdf	ユーザーズマニュアル (PDF ファイル)
license.txt	使用許諾契約書 (EUC ファイル)
mi.config	カスタマイズ・ファイル (標準、バックが青)
mis.config	カスタマイズ・ファイル (バックが青、mi.config と同じもの)
mib.config	カスタマイズ・ファイル (バックが黒)
miw.config	カスタマイズ・ファイル (バックが白)
mih.config	カスタマイズ・ファイル (バックが青、文字にハイライト)
mia.config	カスタマイズ・ファイル (英語モード用、バックは青)

カスタマイズ・ファイルの数や内容は変更されている場合があります。

2

プログラムファイルの「mi」を「bin」などのパスの通ったディレクトリ上にコピーします。

この「mi」だけでエディタとして使用することが可能です。

3

システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリの下に「.mi」というディレクトリを作成します。

そこにプログラム以外のすべてのファイル (マニュアル・ファイル、使用許諾契約書、カスタマイズ・ファイル) をコピーします。



【ワークディレクトリ】

MIFES for Linux では、システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリの下の「.mi」をワークディレクトリとします。

なお、「.mi」ディレクトリが存在しない場合には、システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリ（ホームディレクトリ）がワークディレクトリになります。

ワークディレクトリ上には、エディタの実行により、プロファイル・ファイル「mi.ini」、行カットバッファ・ファイル「mi\$scut.txt」、文字列カットバッファ・ファイル「mi\$scut.txt」、箱型カットバッファ・ファイル「mi\$bcut.txt」が作成されます。

実行とライセンスキーの入力

MIFES for Linux をインストールして、初めて実行するときの操作を説明します。

① コマンド「mi」を実行します。

ライセンスキー入力の画面が表示されます。

② ライセンスキーを入力します。

メガソフトが発行したライセンスキーを入力します。

ライセンスキーを入力しない場合は、体験版として起動します。

メガソフトから発行されたライセンスキーを入力してください。
XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
(入力キャンセルで体験版として起動)

ライセンスキーは、あとから入力することもできます。

[F2] キーを押し、【編集ファイルの切り換え】メニューの【ライセンスキーを追加する】を選択してください。





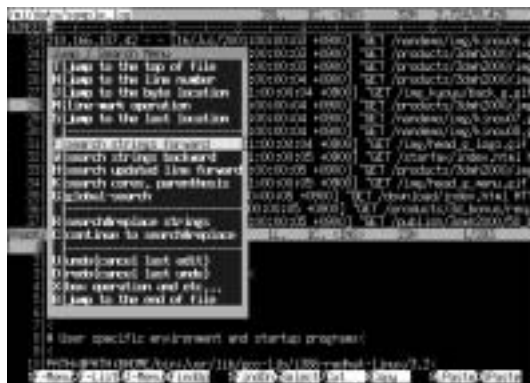
英語モードについて

漢字端末でない環境で実行すると、自動的に英語モードで起動します。

英語モードでは、ガイドライン、メニュー、メッセージ、キー操作一覧などすべて英語で表示します。

また、漢字の認識や表示は行いません。0x80 以上のコードはすべて非文字（16 進 2 桁で表示）として扱います。

英語モードでのデフォルトのカスタマイズ・ファイルは、「mi.config」ではなく「mia.config」です。



カスタマイズ・ファイル

ワークディレクトリ「.mi」にコピーした「mi.config」は、エディタのカスタマイズ用の設定ファイルです。

サンプルとして、カラー定義（COLOR）のみ違うカスタマイズ・ファイルを同梱しました。オプション -cNAME で起動して、お好みのものを「mi.config」にリネームして、カラー以外の設定を行ってください。

例：mi -cb ... 「mib.config」（黒バックのカスタマイズ・ファイル）

mi -cw ... 「miw.config」（白バックのカスタマイズ・ファイル）

なお、カスタマイズ・ファイルは Shift-JIS ファイルでなくてはなりません。



カスタマイズ 39 ページ



端末ごとの設定

端末によっては、基本的なキーや表示の設定を変更する必要がある場合があります。弊社下記ホームページをご参照下さい。

MIFES for Linux FAQ のページ

<http://www.megasoft.co.jp/support/mifes/faq/milinuxfaq.html>

第2章

基本操作



この章では、起動の操作、メニュー選択の操作、ファイル名入力操作など、MIFES for Linux の基本操作について詳しく説明します。

起動時コマンドラインの指定

ファイル名を指定する

既存のファイル名を指定して起動する操作は次のとおりです。

```
$ mi sampel1.c
```

複数ファイルを指定する

MIFES for Linux は、最大 20 ファイル名まで指定することができます。
ファイル名とファイル名の間は、半角スペースで区切ります。

```
$ mi sampel1.c sample2.c test.h
```

行番号を指定する

カーソル位置をジャンプさせたい行番号を指定して、ファイルを開くことができます。

ファイル名の直後に半角の + 記号に続いて行番号を指定します。

例：ファイル「sampel1.c」を開き、行番号 300 にカーソル位置をジャンプするように指定する場合。

```
$ mi sampel1.c+300
```

ディレクトリ名を指定する

ディレクトリ名を指定することができます。

ディレクトリ名を指定して起動すると、指定されたディレクトリ上のファイル名一覧が表示されます。

```
$ mi /usr/lib
```

ワイルドカードで指定する

ワイルドカードを使って、ファイルを指定することができます。

ワイルドカードを指定して起動すると、指定されたディレクトリ上の該当するファイル名一覧が表示されます。

例：ワイルドカードを指定する場合は、半角のダブルクォーツ " で囲って指定してください。

(ダブルクォーツで囲まないとシェルにより自動的に実在するファイル名に展開されてしまいます。)

```
$ mi "*.c"
```

例：複数のワイルドカードを指定する場合は、半角セミコロン ; で区切ります。

```
$ mi "*.c;*.h"
```

例：ディレクトリ名とワイルドカードを同時に指定することができます。

```
$ mi "/etc/*.conf"
```

起動時オプション

起動時のコマンドラインには、以下の起動時オプションを指定することができます。起動時オプションはすべて、半角のハイフン - の直後に英数字 1 文字が続くショートオプションです。

-pn

コマンドライン上でこのオプションより右側に指定したファイルに適用するブリプロセッサを指定します。

-p と n の間にはスペースを入れないで指定します。

このオプションを指定しない場合のデフォルトは自動設定（-p0 と指定するのと同じ）です。

なお、英語モードではこのオプションは無視されます。

n=0	自動設定
1	Shift-JIS ファイル
2	Unicode ファイル
3	Unicode Big endian
4	EUC ファイル
5	JIS コードファイル
6	UTF-8 ファイル
7	Macintosh ファイル

例：「eucfile.txt」を EUC ファイル、「sjisfile.txt」を Shift-JIS ファイルのブリプロセッサを適用して開きます。

```
$ mi -p4 eucfile.txt -p1 sjisfile.txt
```

-r

コマンドライン上でこのオプションより右側に指定したファイルを、参照専用で開きます。

例：「editfile.txt」は通常どおり（編集用）、「readonly.txt」は参照専用で開きます。

```
$ mi editfile.txt -r readonly.txt
```

-wDIR**-w DIR**

DIR に指定したディレクトリをワークディレクトリとします。

-w と DIR の間にはスペースを入れても入れなくても構いません。

DIR は必ず絶対パス名で指定してください。

(相対パス名は指定できません。)

このオプションを指定しなかった場合のワークディレクトリは、システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリの下の「.mi」ディレクトリになります。

「.mi」ディレクトリが存在しない場合には、システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリ（ホームディレクトリ）がワークディレクトリになり、以下のファイルはワークディレクトリ上にあるものと見なします。

mi *.config	カスタマイズ・ファイル
mi.ini	プロファイル・ファイル
mi.txt	マニュアル・ファイル
mi\$lcut.txt	行カットバッファ・ファイル
mi\$scut.txt	文字列カットバッファ・ファイル
mi\$bcut.txt	箱型カットバッファ・ファイル



ワークディレクトリ 4 ページ

-s

シェル・エスケープ機能で外部コマンドを使用した場合、シェルの介さずに直接実行することを指定します。

-k

このオプションを指定すると、コンソールへの出力をシフト JIS コードで行い、半角カナ（0A1H～0DFH）は半角文字として表示します。

（このオプションを指定しない場合は、コンソールへの出力は EUC で行い、半角カナ（0A1H～0DFH）は非文字コードとして 16 進 2 桁で表示します）。

このオプションは、シフト JIS 漢字端末の環境で使用する場合に指定します。英語モードではこのオプションは無視されます。

-cNAME

このオプションは、通常とは異なるカスタマイズ状態で起動したい場合に使用します。起動時に読み込むカスタマイズ・ファイルのファイル名を「miNAME.config」に変更します。

通常 NAME は半角の英字 1 文字で、-c と NAME の間にはスペースを入れないで指定します。

このオプションを指定しない場合、起動時に読み込むカスタマイズ・ファイルは「mi.config」になります。

(漢字端末でない環境では「mia.config」になります。)

なお、漢字端末の場合でも、このオプションでカスタマイズ・ファイル

「mia.config」を指定すると (-ca)、英語モードで起動することができます。

英語モードでは、ガイドライン表示、メニュー表示、メッセージ表示、キー操作一覧などすべて英語で表示し、漢字の認識や表示は行いません。0x80 以上のコードはすべて非文字 (16 進 2 桁で表示) として扱います。

例：カスタマイズ・ファイル「mib.config」を読み込んで起動します。

```
$ mi -cb
```



カスタマイズ用ファイル 39 ページ

-v

-?

このオプションを指定すると著作権情報、バージョン情報を表示し、起動せずに終了します。

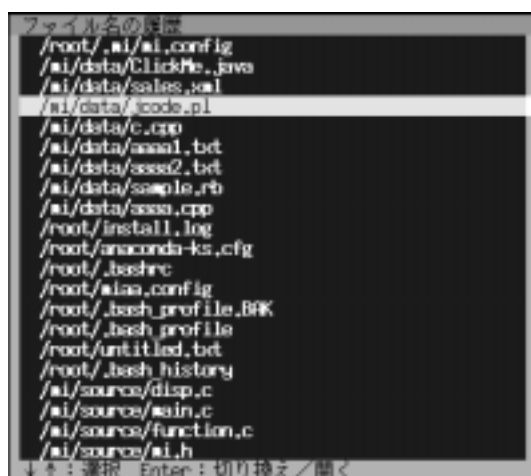
なお、シェルによってはアプリケーションが -? オプションを使用できない場合があります。その場合は、-v オプションを使用してください。

- (半角ハイフンのみ)

このオプションは、編集したいファイルを【ファイル名の履歴】メニューから選択したいときに使用します。

(通常は、起動時にファイルの指定がない場合には、ファイル名の入力画面が表示されます。)

【ファイル名の履歴】メニューを [Esc] キーで終了すると、ファイル名の入力画面が表示されます。



メニュー選択時のキー操作

一般のメニューのキー操作

メニューの表示 [F1] ~ [F10]

メニュー呼び出し機能が定義されたファンクションキーを押すと、メニューが表示されます。

メニューが表示されている状態で、他のメニュー呼び出し機能が定義されたファンクションキーを押すと、現在のメニューをキャンセルして、そのファンクションキーに定義されたメニューに切り換えます。

メニューが表示されている状態で、表示されているメニューを呼び出すファンクションキーをもう一度押すと、そのメニューで前回選択された項目が自動的に選択されます。

メニューの選択と実行 []、[], A~Z、0~9

- [], [] キーと [Enter]
[] または [] キーでメニュー項目を選択し、[Enter] キーで実行します。
- A~Z、0~9
各メニュー項目の左端に表示されている半角の英数字 1 文字を入力すると、そのメニュー項目に移動します。

メニュー選択のキャンセル [Esc]

メニューの表示と、メニュー選択をキャンセルします。

【表示 & 動作状態の設定】メニュー、
【その他の動作状態の設定】メニュー、
【その他の環境の設定】メニューのキー操作

メニュー項目の移動 [], [], A~Z、0~9

- ・ [], [] キー
メニュー項目を上下に移動します。
- ・ A~Z、0~9
各メニュー項目の左端に表示されている半角の英数字 1 文字を入力すると、そのメニュー項目に移動します。

メニュー項目の設定変更 [], [], [Space]

選択中のメニュー項目の設定を環状に切り換えます。

メニューの終了 [Enter]

変更したメニュー項目の設定を有効にして、メニューを終了します。

メニューのキャンセル [Esc]

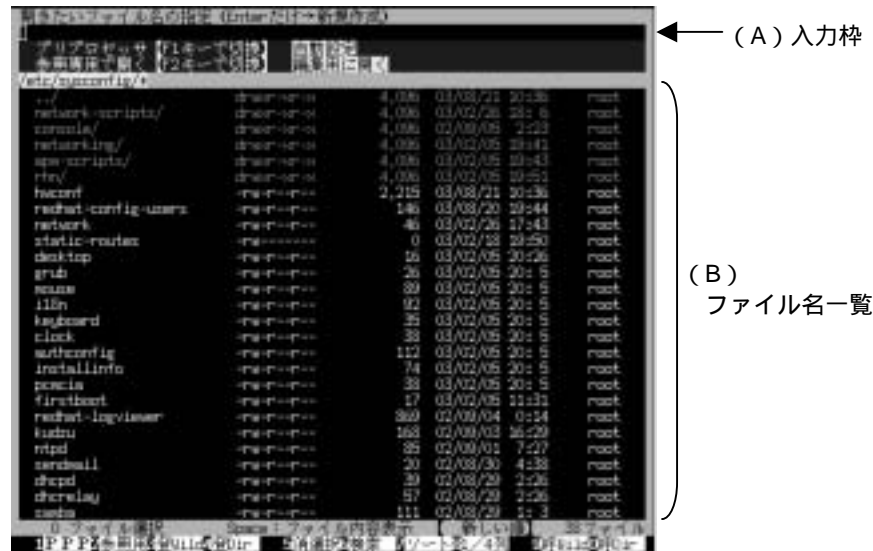
メニュー選択をキャンセルします。変更したメニュー項目はすべて無効になります。

メニューの切り換え [F1] ~ [F10]

メニューが表示されている状態で、メニュー呼び出し機能が定義されたファンクションキーを押すと、現在のメニューをキャンセルして、そのファンクションキーに定義されたメニューに切り換えます。

ファイル名の入力画面におけるキー操作

ファイル名の入力画面では、以下の2つの方法でファイル名を指定します。
(同時に両方の方法でファイル名を指定することはできません。)



(A) 入力枠にファイル名を入力する

入力枠中のカーソル(ファイル名入力カーソル)位置にファイル名を指定します。
一度に複数のファイル名を指定することはできません。
ファイル名一覧を表示するためのワイルドカード文字列や、ファイル名を検索するための検索ファイル名なども、入力枠に入力します。
なお、半角の「」1文字が入力された場合や、「/???」というパターンの文字列が入力された場合には、「」の部分ホームディレクトリ名に展開して認識します。

(B) ファイル名一覧からファイル名を選択する

ファイル名一覧でファイル名を選択するための「ファイル名選択カーソル」を使用してファイル名を指定します。
【その他の環境の設定】メニュー中の「ファイル名一覧での複数ファイル選択」が「有効」になっている場合には、ファイル名選択カーソルを使用して最大20ファイルまで、一度に指定することができます。

以下に、ファイル名の入力画面におけるキー操作を説明します。

プリプロセッサを切り換える [F1]

ファイルを開く際に適用するプリプロセッサを、環状に切り換えます。

参照専用の設定を切り換える [F2]

「参照専用」でファイルを開くか、「編集用」で開くかを切り換えます。

ファイル名一覧を表示しているワイルドカードを登録する [F3]

現在ファイル名一覧を表示しているワイルドカードを、指定のファンクションキーに登録します。

左下に「登」と表示されますので、[F1]～[F10]キーのいずれかを押し、ワイルドカードに登録したいファンクションキーを指定してください。

ファンクションキー以外のキーを入力するか、[F11]キーまたは[F12]キーを押すと登録をキャンセルします。

ファイル名一覧を表示しているディレクトリを登録する [F4]

現在ファイル名一覧を表示しているディレクトリ名を、指定のファンクションキーに登録します。

左下に「登」と表示されますので、[F3]～[F10]キーのいずれかを押し、ディレクトリ名に登録すべきファンクションキーを指定してください。

ファンクションキー以外のキーを入力するか、[F11]キーまたは[F12]キーを押すと登録をキャンセルします。

ファイル名選択マークを消去する [F5]

ファイル名を選択したときに表示される選択マーク(*)を消去し、選択を解除します。

ファイル名を検索する [F6]

入力枠に指定されたファイル名を検索します。

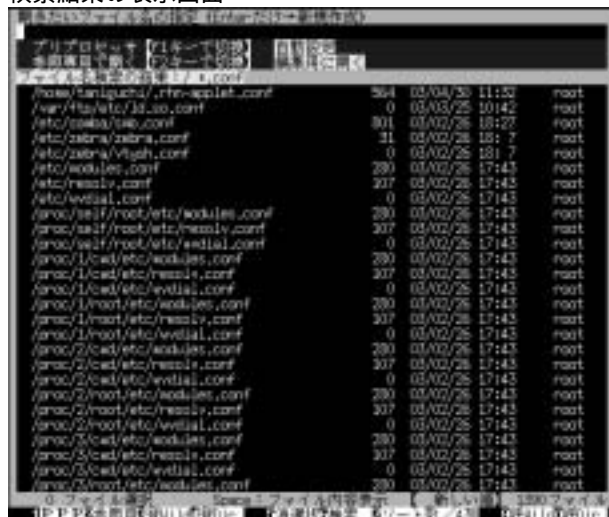
検索するファイル名にはワイルドカードを指定することもできます。

また、検索ファイル名の前に検索開始ディレクトリ位置（必ず / で始まる文字列）を指定することもできます。

検索開始ディレクトリ位置の指定がない場合には、カレントディレクトリを検索開始ディレクトリ位置とみなします。

検索開始ディレクトリ位置と検索ファイル名の間には、1つ以上の半角スペースを入力してください。

検索結果の表示画面



ファイル名の並べ替え方法を切り換える [F7]

ファイル名一覧のソート（並べ替え）方法を環状に切り換えます。

すべてのソート方法において、ディレクトリ名を先に、ファイル名を後に表示します。

また、「名前の昇順」と「名前の逆順」の場合に限り、ディレクトリ名もソートします。

並べ替えの方法と順番は次のとおりです。

名前の昇順 名前の逆順 新しい順 古い順

エントリ順 拡張子順 小さい順 大きい順

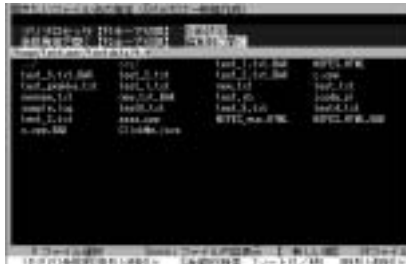
ファイル名一覧の表示方法を切り換える [F8]

ファイル名一覧の表示方法を、1 表示と 4 列表示で切り換えます。

1 列表示



4 列表示



登録ワイルドカードを呼び出す [F9]、[F12]

登録ワイルドカードを呼び出し、ファンクションキー（[F1]～[F10]キー）でワイルドカードを選択すると、選択されたワイルドカードに一致するファイル名一覧に切り換えます。

[F1]～[F10]キー以外のキーを押すと、ワイルドカードの選択をキャンセルします。

[F12]キーで登録ワイルドカードを呼び出した場合、同じキーをもう一度押すことで選択をキャンセルできます。

登録ディレクトリを呼び出す [F10]、[F11]

登録ディレクトリ名を呼び出し、ファンクションキー（[F1]～[F10]キー）でディレクトリ名を選択すると、選択されたディレクトリ位置のファイル名一覧に切り換えます。

なお、[F1]キーでは常に起動時のカレントディレクトリを、[F2]キーでは常にホームディレクトリ（システムの環境変数「HOME」で定義されたディレクトリ）を選択できます。

[F1]～[F10]キー以外のキーを押すと、ディレクトリ名の選択をキャンセルします。

[F11]キーで登録ディレクトリ名を呼び出した場合、同じキーをもう一度押すことで選択をキャンセルできます。

ファイル名カーソルを 1 行移動する []、[]

ファイル名選択カーソルを 1 行 []（下）または []（上）に移動します。

ファイル名選択カーソルがない場合には、ファイル名選択カーソルを表示します。

ファイル名カーソルを移動する []、[]

ファイル名選択カーソルを 1 ファイル [] (左) または [] (右) に移動します。

ファイル名選択カーソルがない場合には、ファイル名入力カーソルを 1 文字 [] (左) または [] (右) に移動します。

ディレクトリ、ファイルを選択する [Enter]

ファイル名選択カーソルがディレクトリ名の上にある場合は、そのディレクトリ上のファイル名一覧を表示します。

ファイル名選択カーソルが通常ファイル名の上にある場合は、そのファイル名に選択マーク (*) を付けます。

すでに選択マークが付いている場合には、ファイル名入力画面を終了します。

また、ファイル名選択カーソルがない場合で、入力枠にワイルドカードやディレクトリ名が入力されているときは、指定のファイル名一覧を表示します。

入力枠にファイル名が入力されているか、何も入力されていない場合には、ファイル名入力画面を終了します。

ファイル名選択カーソルを消す [End]、[Home]

ファイル名選択カーソルがある場合は、これを消します。

選択マーク (*) を付けた開きたいファイル名とは違う別のファイル名に、ファイル名選択カーソルがある場合、このキーでファイル名選択カーソルを消した後に [Enter] キーを押してください。

ファイル名入力画面のキャンセル終了 [Esc]

ファイル名の入力画面を、キャンセルして終了します。

選択マーク (*)、入力枠に入力されている文字列も、すべて無効になります。

ファイル内容をプレビュー表示する [Space]

ファイル名選択カーソルがある場合は、ファイル名選択カーソル位置のファイルの内容をプレビュー表示します。

プレビュー状態で、[Enter] キーまたは [Space] キーを押すと、ファイル名一覧の表示に戻ります。

また、プレビュー画面の上下スクロールは、[] [] キーで行えます。

ファイル名一覧に戻っても、ファイル名選択カーソルがない場合は、ファイル名入力カーソル位置に半角スペースを 1 文字入力します。

ファイル名を補完するように検索 [Tab]

現在表示されているファイル名一覧上で、ファイル名を検索します。

入力枠に文字列（1～8 バイト）を入力し、[Tab] キーを押すと、入力されている文字列（1～8 バイト）で始まる一覧上のファイル名に、自動的にファイル名選択カーソルが移動します。

このとき、入力枠の文字列はクリアされます。

入力枠に何も入力されていない場合には [Tab] キーを押すと、前回 Tab キーで検索したファイル名の検索を、現在のファイル名選択カーソルの次のファイル名から検索します。

ファイル名一覧が名前の昇順になっていない場合は特に便利です。

第3章

設 定



MIFES for Linux には、画面の表示や動作、その他いろいろな設定を自分が使いやすいように変更することができます。
この章では、各種設定の内容と、変更方法を説明します。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

表示に関する設定

MIFES for Linux の表示に関する設定項目は次の図のとおりです。



行ゲージの表示

[ON] にすると、行ゲージを表示します。

桁ゲージの表示

[ON] にすると、桁ゲージを表示します。

改行文字の明示

[ON] にすると、改行文字を明示します。なお、明示する改行文字の文字コードは、カスタマイズ・ファイル「mi.config」の中でキーワード MARKCODE0、MARKCODE1、MARKCODE2、で変更できます。

ハードタブの明示

[ON] にすると、ハードタブ（コード 09H）を明示します。なお、明示するハードタブの文字コードは、カスタマイズ・ファイル「mi.config」の中でキーワード MARKCODE5 で変更できます。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

全角スペースの明示

[ON] にすると、全角スペースを明示します。なお、明示する全角スペースの文字コードは、カスタマイズ・ファイル「mi.config」の中でキーワード MARKCODE6 で変更できます。

[EOF]マークの明示

[ON] にすると、ファイル最後尾の[EOF]マークを明示します。
なお、この設定に関係なく、「シェル・エスケープ」ファイルでは、[EOF] マークの明示は自動的に [OFF] になります。

変更のある行の明示

[ON] にすると、変更のある行を別の色で明示します。

カーソル行アンダーライン

[ON] にすると、カーソル行の下にアンダーラインを表示します。

画面内の対応括弧の明示

[ON] にすると、カーソル位置の文字が半角の括弧 [{ () }] だった場合に、その括弧と対応する括弧を画面内で探して、見つければその括弧（カーソル位置の括弧と対応する括弧）を明示します。

行ゲージの表示桁幅

行ゲージの表示桁幅を 6 ~ 10 桁の範囲内で選択します。行番号文字列が行ゲージ内に入り切らない場合、行番号文字列の下位桁部分のみを行ゲージ内に表示します。

ハードタブ桁幅

ハードタブの桁幅を、2 桁、4 桁、8 桁、16 桁の中から選択します。

折り返し桁幅

行の長さが何桁以上になったら折り返し表示するかを指定します。16 桁 ~ 250 桁の範囲から選択できます。

動作に関する設定

オートインデント

オートインデント処理（改行後の行頭のスペース量がその上の行と同じになるように自動的に段下げする処理）を設定します。

[ON] にすると、[Enter] キーで改行するとオートインデントを実行します。

行端でのカーソル停止

カーソルが行の左端 / 右端にある時に [] [] キーを押したときの動作を設定します。

[ON] にすると、行の左端 / 右端にある時に [] [] キーを押しても、カーソル位置は変わりません。

フリーカーソルモード

文字がない場所へのカーソル移動を設定します。（ただし、設定内容に関わらず、折り返し桁位置より右側へは移動できません。）

[ON] 改行文字より右側へカーソルが移動できます。

[OFF] 改行文字より右側へはカーソルが移動できません。

ソフトタブ動作

[ON] Tab キーを押した時の動作がソフトタブ動作になり、[挿入] 状態では次のタブストップ位置まで半角スペースを挿入し、[上書] 状態では次のタブストップ位置までカーソルを移動します。

[OFF] Tab キーを押した時の動作がハードタブ動作になり、[挿入] 状態ではタブ文字（コード 09H）を挿入し、[上書] 状態では次のタブストップ位置までカーソルを移動します。

キーリピート時の移動速度

カーソル移動操作 (キー) キーリピート時 (キーを押し続けたとき) の動作速度と、高速スクロール機能 (機能番号 87、機能番号 88) のスクロール速度を設定します。

1 行または 1 文字単位のカーソルを移動

(機能番号 5 : [] キー、機能番号 24 : [] キー、機能番号 19 : [] キー、機能番号 4 : [] キー)

「キーリピート時の移動速度」の設定が [2 倍速] 以上の場合には、キーリピート時に、2 行または 2 文字単位でカーソルを移動します。

画面のスクロールを伴うようなカーソル移動の場合には、指定した速度でスクロールを実行します。

例 : [3 倍速] を指定した場合

スクロールを伴わない場所では 2 倍速で移動します。

スクロールを伴う場所では 3 倍速で移動します。



環境によってはうまく動作しない場合があります。そのときは [1 倍速] を指定してください。

高速スクロール (機能番号 87、機能番号 88)

「キーリピート時の移動速度」の設定に従って、画面を高速にスクロールする機能です。



この機能はデフォルトではキーに定義されていません。

キーに定義する場合には、カーソル移動キー以外のキーに定義してください。

高速なスクロールを設定しても、コンピュータの性能により高速にならない場合があります。また、あまり速い設定にするとキーを離しても動作が止まらない場合があります。お使いのコンピュータの性能に応じた設定をしてください。

スクロールマージン行数

カーソルがウィンドウの上下端に到達する何行前からスクロールを開始するか、という行数を「スクロールマージン行数」と呼びます。

0 行 ~ 7 行の範囲内でスクロールマージン行数を設定できます。

標準の改行形式

[Enter] キーを押したときに挿入される改行コードを設定します。

「標準の改行形式」を [CR&LF] に設定すると、2 バイトの CR&LF コード (0DH , 0AH) が挿入されます。

「標準の改行形式」を [LF] に設定すると、1 バイトの LF コード (0AH) が挿入されます。

決定のルールについて

「標準の改行形式」は、各編集ファイルごとに設定されます。

通常は「標準の改行形式」を変更することではなく、「CR&LF」、「LF」のどちらになるかは、開いたファイルの内容などから自動的に決定されます。決定のルールは次のとおりです。

- | | |
|------------------------|----------|
| ・改行文字が 2 バイトの CR&LF | 「CR&LF」 |
| ・改行文字が 1 バイトの LF | 「LF」 |
| ・両方の改行文字が混在している場合 | 多い方の改行形式 |
| ・改行文字を含まない「EUC ファイル」 | 「LF」 |
| ・改行文字を含まない「EUC ファイル」以外 | 「CR&LF」 |
| ・新規ファイル | 「LF」 |



ファイルを開いた後で、変更した「標準の改行形式」は、カレントファイル (現在編集集中のファイル) にのみ適応されます。

影響する項目について

「標準の改行形式」 (「CR&LF」か「LF」かという状態) は、以下の項目に影響します。

- ・ [Enter] キーを押した時に挿入される改行文字
- ・置換文字列中のメタ文字「\n」で指定された改行文字
- ・英字バッファ中のメタ文字「\n」で指定された改行文字
- ・「グローバル検索結果」上で自動的に挿入される改行文字
- ・「シェル・エスケープ」上で自動的に挿入される改行文字



検索文字列中のメタ文字「\n」は、常に「CR&LF」とも「LF」とも一致します。「標準の改行形式」の設定内容に影響されません。

改行文字が混在する場合の統一方法

2 バイト改行文字 (CR&LF) のファイルと 1 バイト改行文字 (LF) のファイル間でコピーやカット & ペーストなどの編集操作を行うと、1 つのファイル中に 2 バイト改行文字と 1 バイト改行文字が混在した状態になることがあります。

このような時に、すべての改行文字をどちらかに統一するには、以下の 2 つの方法があります。

方法 1 : 文字列の連続置換機能で、検索文字列「\n」を置換文字列「\n」に置換する

「標準の改行形式」が「CR&LF」ならば、改行文字はすべて 2 バイト改行文字 (CR&LF) に置換され、「LF」ならば、改行文字はすべて 1 バイト改行文字 (LF) に置換されます。

方法 2 : 「その他の環境の設定」メニューの「ファイル保存時に標準の改行形式に変換」を「有効」にする

この方法では、編集時の改行文字はそのままですが、保存したファイル中の改行文字がすべて「標準の改行形式」に変換されます。

既存ファイルを開いた後に、「標準の改行形式」を変更してファイル保存すれば、ファイルの改行形式を変更することができます。

保存時に変更行マークを消去

[ON] にすると、ファイルの保存時に変更行マークを消去します。

参照専用でも変更操作を許可

[ON] 参照専用で開いた (または強制的に参照専用にした) のファイルを編集することができます。ただし、ファイルへの保存 (上書き保存) はできません (参照専用の設定はそのままです)。

[OFF] 参照専用で開いた (または強制的に参照専用にした) ファイルを編集できません。

その他の環境の設定

「その他の環境」はエディタ全体に対する状態です。「その他の環境」を変更すると、その直後からすべての編集ファイルに対して動作が変更されます。

「その他の環境の設定」の操作方法

① ダウンロードしたファイルを解凍します。

[F1] キーを押して、表示されたメニューから「その他の環境の設定」を選択します。次のメニューが表示されます。

その他の環境の設定	
I PageUp/PageDown動作1回での移動量	1画面
K キーボードマクロの英字バッファ登録	有効
A ファイル読み込み時の自動コード判定	許可
G グローバル検索時の自動コード判定	許可
J ファイルを開いた際の自動的なジャンプ	有効
L ファイル保存時に標準の改行形式に変換	無効
S 画面スプリットの形状	上下
F ファイル比較時の空白と改行の無視	無効
M ファイル名検索時の半角大文字・小文字	同一視
N ファイル名一覧での複数ファイル選択	有効

O 起動時から上書きモードにする	無効
P 起動時に前回のファイルを自動的に開く	無効
N 起動時に新規ファイルを自動的に開く	有効
D 終了時のカットバッファ・ファイル削除	無効

X バックアップ・ファイル名の拡張子	追加
C バックアップ・ファイルの作成方法	Copy
B バックアップ・ファイルの多重度	通常
↓ ↑ : 選択 ← → : 設定の切り換え	

② カーソルキーで設定したい項目へ移動し、[] [] カーソルキーまたは、[Space] で設定を変更します。

(設定の内容については次のページ以降を参照してください。)

③ 設定が終わったら、[Enter] キーを押して設定内容を確定します。

設定した内容をキャンセルするときは [ESC] キーを押して、【その他の環境の設定】メニューを終了します。

「その他の環境の設定」項目について

[Page Up] / [Page Down] 動作 1 回での移動量

[Page Up] / [Page Down] キーを押したときのスクロールの幅を設定します。

[1 画面] [Page Up] / [Page Down] キーを 1 度押すと、1 画面分移動します。
高速に移動したい場合は、にこの設定にしてください。

[半画面] [Page Up] / [Page Down] キー 1 度押すと、半画面分移動します。
移動前に画面に表示されていた行の半分が、移動後も画面内に残っている
るので、移動方向が分からなくなるようなことはありません。

キーボードマクロの英字バッファ登録

キーボードマクロの定義を終了したときに、定義したキーボードマクロの内容を指定した英字バッファに登録するか、しないかを設定します。

[有効] キーボードマクロの定義を終了したときに、自動的に登録する英字バッファを指定する操作をユーザーに促します。
このとき、英字バッファを指定する操作以外の操作を行えば、英字バッファへの登録は行いません。

[無効] キーボードマクロの定義を終了したときに、英字バッファへの登録を促しません。

英字バッファ中のキーボードマクロのメタ表現

キーボードマクロは、キー操作を下表のメタ表現で記述します。

英字バッファに登録可能なキーボードマクロの最大長は、メタ表現に変換した時の文字列で最大 126 バイトまでです。これより長いキーボードマクロは英字バッファに入り切らないため、[有効] の場合でも英字バッファの指定操作は行いません。

メタ表現は DOS 版 MIFES のマクロ言語中のキー操作列の表現とほぼ同じです。

キーボード	メタ表現	キーボード	メタ表現
[Ctrl] + [A]	^A その他のアルファベットも表記ルールは同じ 例: [Ctrl] + [Z] ^Z	[]	^:
		[]	^<
		[]	^>
		[]	^;
[Ctrl] + [@]	^@ 以下の記号も表記ルールは同じ [\] ^ _	[Home]	^=
		[End]	^?
		[Esc]	^[
[F1] ~ [F10]	^1 ~ ^0	[Enter]	\n
[F11]	^!	[Tab]	\t
[F12]	^"	文字 \	\\
[Page Up]	^_	文字 ^	\^
[Page Down]	^+	一般の半角文字	半角文字
[Insert]	^,	全角文字	全角文字
[Delete]	^.		

「\」（バックスラッシュ）は環境により、「¥」で表示されることがあります。



キーボードマクロを英字バッファに登録することにより、キーボードマクロを次回以降の起動時に引き継ぐことができますが、キーボードマクロはキー操作を記録したものであるため、その動作はキーカスタマイズ状態に依存します。

実行した機能を記録する MIFES for Windows のキーボードマクロとは基本的に異なります。

ファイル読み込み時の自動コード判定

「ファイルを開く」または「ファイルを挿入する」ときのコード判定を設定します。

[許可] ファイル内容による自動コード判定を行ない、その結果に応じたプリプロセッサを適用してファイルを読み込みます。

[禁止] ファイル内容による自動コード判定は行わず、すべて「EUC ファイル」と見なしファイルを読み込みます。



ファイル読み込み時のコード判定は、この項目の設定内容に関係なく、「拡張子定義によるプリプロセッサの適用」で設定された内容が優先されます。

グローバル検索時の自動コード判定

グローバル検索時のコード判定を設定します。

[許可] グローバル検索時にファイル内容による自動コード判定を行い、その結果に応じたプリプロセッサを適用してグローバル検索を実行します。

[禁止] グローバル検索時にファイル内容による自動コード判定は行わず、すべて「EUC ファイル」と見なしてグローバル検索を実行します。



ファイル内容による自動コード判定よりも、拡張子定義によるプリプロセッサの適用の方が優先されます。

ファイルを開いた際の自動的なジャンプ

既存のファイルを開いたときに、カーソル位置のジャンプに関する設定をします。

[有効] 「ファイルを開く」で既存のファイルを開いたときに、そのファイルがファイル名の履歴中に記録されていれば、カーソルが最後の編集位置に自動的にジャンプします。

[無効] 上記の処理は行いません。



ファイル名の履歴からファイルを選択して開く場合には、この設定に関係なく、常にファイルを開いた直後に最後の編集位置に自動的にジャンプします。

ファイル保存時に標準の改行形式に変換

1つのファイルの中に、2バイト改行文字と1バイト改行文字が混在している場合にファイルの改行形式を統一するための設定項目です。

[有効] すべての改行文字を「標準の改行形式」に変換してファイル保存します。

[無効] 改行文字を変換せずにファイル保存します。



標準の改行形式 29 ページ



ポストプロセッサ「Macintosh ファイル」が設定されているときは、「ファイル保存時に標準の改行形式に変換」の設定や「標準の改行形式」の設定に関係なく、すべての改行文字は（2バイト改行文字も1バイト改行文字も共に）CR コード（0DH）に変換されます。

画面スプリットの形状

画面をスプリット（２分割）する際の形状を、[上下]と[左右]で選択します。
画面をスプリットする操作は、「画面のスプリット形状を環状に切り換える」機能
[F12]で行います。

[上下]設定時



[左右]設定時



ファイル比較時の空白と改行の無視

画面をスプリット（２分割）表示して２つのファイル比較機能（機能番号 97 と 98）
するときの、空白と改行を無視するかどうかを設定します。

- [有効] 空白と改行は無視してファイル内容の比較を行います。
- [無効] 空白と改行も含めてファイル内容の比較を行います。

ファイル名検索時の半角大文字・小文字

ファイル名検索時に、ファイル名に含まれる半角英字の大文字・小文字の区別につ
いての設定を行います。

- [区別] ファイル名検索でワイルドカードを含んだファイル名を指定したときに、半角英文字の大文字と小文字を区別してファイル名を探します。
ファイル名を「*.txt」と指定して検索した場合には、拡張子が「.TXT」のファイル名は見つかりません。
- [同一視] ファイル名検索でワイルドカードを含んだファイル名を指定したときに、半角英文字の大文字と小文字を同一視してファイル名を探します。
例えば「*.txt」と指定した場合には、拡張子が「.txt」と「.TXT」のファイル名も検索します。
「同一視」は、DOS や Windows の環境に慣れたユーザーのために用意されたものです。



この「ファイル名検索時の半角大文字・小文字」の設定は、拡張子定義や明示キー
ワード定義における拡張子名のチェックの際にも適用されます。
例えば、「同一視」設定時に、拡張子「.html」に対して定義された明示キーワード
は、拡張子が「.html」と「.HTML」のファイルに適用されます。

ファイル名一覧での複数ファイル選択

ファイル名の入力画面での、ファイルの複数選択についての設定を行います。

- [有効] ファイル名の入力画面において、ファイル名一覧の中から一度に20ファイルまでを指定することができます。
ファイル名を選択して [Enter] キーを押しファイル名に選択マーク (＊) を付けます。開きたいファイルすべてに選択マーク (＊) を付けて、すでに選択マーク (＊) が付いているファイル名の上で [Enter] キーを押すと、選択されているすべてのファイルが一度に開きます。
1ファイルだけを開きたい場合には、開きたいファイル名を選択して [Enter] キーを2回押します。
- [無効] ファイル名の入力画面において、ファイル名一覧中から1つだけ、ファイルを開くことができます。(複数を一度に開くことはできません。)
ファイル名を選択して [Enter] キーを押します。

起動時から上書きモードにする

起動時の入力モードを設定します。

- [有効] 起動時に [上書モード] になります。
- [無効] 起動時に [挿入モード] になります。

起動時に前回のファイルを自動的に開く

- [有効] 起動時に、前回の終了時に開いていたファイルを自動的に開きます。
複数ファイルを開いていて、ファイルを1つずつ閉じて MIFES を終了した場合には、最後に閉じたファイルが次の起動時に自動的に開かれます。
- [無効] 起動時に、自動的にファイルを開きません。

起動時に新規ファイルを自動的に開く

- [有効] ファイル名を指定せずに起動すると、自動的に新規ファイルを1つ開きます。
- [無効] ファイル名を指定せずに起動すると、ファイル名の入力画面が表示されます。
ファイル名の入力画面で、ファイルを指定せず [Enter] キーを押すと、自動的に新規ファイルを開きますので、通常は [無効] にしておくことをお奨めします。

終了時のカットバッファ・ファイル削除

- [有効] 終了時に行カットバッファ・ファイルと文字列カットバッファ・ファイルを削除します。
- [無効] 終了時にカットバッファ・ファイルを削除しません。
カットバッファ・ファイルを削除しないで、終了すると、次回以降の起動時に行カットバッファや文字列カットバッファの内容を挿入することができます。



各カットバッファ・ファイルは環境変数「HOME」で定義されたディレクトリの下
の「.mi」ディレクトリに保存されます。

「.mi」ディレクトリがない場合には、環境変数「HOME」で定義されたディレクト
リ（ホームディレクトリ）に保存されます。

- ・行カットバッファ・ファイル mi\$lcut.txt
- ・文字列カットバッファ・ファイル mi\$scut.txt
- ・箱型カットバッファ・ファイル mi\$bcut.txt

バックアップ・ファイル名の拡張子

- [追加] 元のファイル名の最後に「.BAK」または「.BK?」の拡張子を追加して、
バックアップ・ファイル名を作成します。
例：sample.html sample.html.BAK
- [変更] 元のファイル名の拡張子を「.BAK」または「.BK?」に変更して、バック
アップ・ファイル名を作成します。
例：sample.html sample.BAK



「変更」に設定した場合は、同じディレクトリ内に、ファイル名が同じで拡張子が違うファイル
が存在するときは、下記例のようにバックアップ・ファイル名が同じになってしまいます。
このような場合はバックアップ・ファイルを厳密に残すことはできません。

例：sample.html sample.BAK
sample.c sample.BAK

バックアップ・ファイルの作成方法

[コピー] ファイルの保存処理において、編集元のファイルをバックアップ・ファイルにコピーした後、編集元のファイルを書き換えます。

この場合、編集ファイルの所有者やアクセス権は変化しません。

しかし、バックアップ・ファイルは保存を実行したユーザーが新たに作成することになるため、バックアップ・ファイルの所有者は保存を実行したユーザーになります。

(バックアップ・ファイルのアクセス権は8進数の664とumask設定から決定されます。)

[Rename] ファイルの保存処理において、編集元のファイル名をバックアップ・

ファイル名にリネームした後、保存のためのファイルを編集元のファイル名で新たに作成します。

この場合、バックアップ・ファイルの所有者とアクセス権は、編集ファイルと同じになります。

しかし、保存したファイルは保存を実行したユーザーが新たに作成することになるため、保存したファイルの所有者は保存を実行したユーザーになります。

(保存したファイルのアクセス権は8進数の664とumask設定から決定されます。)

また、ファイルの所有者以外で書き込み権のあるユーザー(所有者と同じユーザーグループに属するユーザーなど)がファイルを編集し保存すると、ファイルの所有者やアクセス権が変更してしまう場合があります。



アクセス権 8進数の664の内容について

所有者とグループには読み書きを許可し、他人には読み込みのみ許可する。

すべてのユーザーで実行は不可である。

バックアップ・ファイルの多重度

バックアップ・ファイルを何重まで残すかを指定します。

カスタマイズ

カスタマイズ用のファイルについて



MIFES は起動時に、MIFES のワークディレクトリに保存されている 2 つのファイルから、カスタマイズ情報を読み込みます。

ワークディレクトリ 4 ページ

カスタマイズ用ファイル

「mi.config」ファイル

キー定義、メニュー定義、カラー定義、明示キーワード定義、拡張子定義など MIFES のメニュー項目で変更できない設定項目が記述されています。

このファイルの内容は、起動時に自動的に読み込まれますが、終了時に自動的に内容が更新されることはありません。

「mi.ini」ファイル

表示 & 動作状態や各種の履歴状態など、MIFES で変更・更新される項目が記述されます。

初めて MIFES を起動し、操作を行ったときに「mi.ini」が作成されます。このファイルは起動時に自動的に読み込まれ、終了時の状態を次回に引き継ぐために、終了時に自動的に書き出されます。



いずれのファイルもシフト JIS コードで記述されています。

変更方法について



いずれのファイルも直接編集し保存することができますが、「mi.ini」ファイルは直接編集せず、MIFES で設定を変更することをお奨めします。

「mi.config」ファイルの書式 40 ページ



MIFES で「mi.ini」ファイルを直接編集した場合に限り、編集した内容を有効にするために、「mi.ini」ファイルの編集終了時に自動的に更新しません。

「mi.config」ファイルの書式

「mi.config」ファイルの基本的な書式は以下の通りです。
1 行（1 論理行）で 1 つの情報を定義します。

```
キーワード=数値  
キーワード=数値,文字列  
キーワード=数値 ;コメント
```

- ・キーワードは半角の英数字で指定、英字は必ず大文字で記述する。
- ・キーワードの直後の等号 = は必ず半角で記述する。
- ・数値は半角の 10 進数または 16 進数で指定する。
16 進数の頭には半角で「0x」を記述する。
- ・数値の後に文字列を指定する場合には、間に半角のカンマ、を記述する。
- ・数値の後の文字列はキーワードにより不要場合があります。
- ・数値の後の半角セミコロン；以降をコメントとする。

なお、各キーワードの具体的な記述方法については、標準配布の「mi.config」ファイル中にコメントとして詳しく記述してありますので、そちらを参照してください。



カスタマイズ用のファイル「mi.config」の書式は、MIFES for Windows のプロファイル・ファイル「miw.ini」の書式に似ていますが、互換性はありません。



明示キーワード定義のためのキーワード「EXKEYWORDS」の書式について

C/C++言語の明示キーワード定義の場合には、数値部分のビット 16（0x00010000）を 1 に、ビット 17（0x00020000）を 1 または 0 に、セットする必要があります。これは、C/C++言語のキーワード明示機能では、半角の # で始まるキーワードは論理行頭にある場合にだけキーワードと見なしたり、#if/#ifdef/#ifndef ~ #endif ブロックを別の色で明示したり、といった特殊な機能を有効にするための指定です。

キーワード「EXKEYWORDS」の書式は MIFES for Windows の「miw.ini」と同じ書式です。書式がむずかしい場合は、MIFES for Windows の「miw.ini」のこの部分を「mi.config」のコピーしてご利用ください。

キーワード VK_SF1 ~ VK_SF12 や VK_CF1 ~ VK_CF12 について

これらは [Shift] + [F1] キー ~ [Shift] + [F12] キーや [Ctrl] + [F1] キー ~ [Ctrl] + [F12] キーに定義する機能番号を指定するものですが、通常の Linux 環境（デフォルトのキーマップ環境）ではこれらのキーは使用できません。

キー操作と機能番号

使用しないキーの定義を記述しておく場合には、機能番号 0 を指定してください。
機能番号 0 が定義されたキー操作は、【キー操作一覧】メニューには表示されません。逆に、入力できないキー操作に 0 以外の機能番号を定義しておくと、その機能を【キー操作一覧】メニューから実行することができます。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセス

各機能の解説

第4章

検索と置換



この章では、検索と置換について、いろいろな検索の方法や、検索文字の指定方法、置換文字の指定方法について詳しく説明します。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

検索と置換の操作について

① [F3] キーを押して、表示されるメニューから選択します。

検索・置換条件の入力ウィンドウが表示されます。

例：【文字列の連続置換】の条件入力ウィンドウ



② 検索文字列を入力し、置換の場合は置換文字列を入力します。

次の操作③で設定する検索方法により、検索文字列や置換文字列の指定方法が異なります。

詳細は次の節をご参照ください。

③ 「検索方法」を設定します。

[F1] キーを押して、検索方法を切り換えて、次の中から設定します。

- ・通常検索：英大・小区別
- ・通常検索：英大・小同一視
- ・ワイルドカード検索：英大・小区別
- ・ワイルドカード検索：英大・小同一視
- ・正規表現検索
- ・あいまい検索



各検索方法の特長 46 ページ

④ 「語単位で探す」の設定をします。

[F2] キーを押して、[はい]と[いいえ]を切り換えて設定します。

[はい] 検索文字列が語の一部となるような場合には、検索対象となりません。
例えば、検索文字列に「Sample」と指定した場合には、
「TempSample」や「SampleTemp」という文字列は検索しません。

[いいえ] 語に関係なく、文字列を検索します。
例えば、検索文字列に「Sample」と指定した場合には、
「TempSample」や「SampleTemp」という文字列も検索します。

操作③で検索方法を「正規表現検索」に設定した場合は、「語単位で探す」の設定は無効となります。

「正規表現検索」に設定したときに、語単位で探したい場合は、文字列の頭に # を、文字列の最後に / を置くようにしてください。

例：「Sample」を語単位で検索したいとき

#Sample/

5

置換の場合は、「置換の確認操作」を設定します。

[F3] キーを押して、[確認あり] と [確認なし] を切り換えて設定します。

[確認あり] 対象の文字列を検索したときに、置換を行う前にカーソルが点滅し置換の実行とキャンセルを指示することができます。

置換したいときは [Enter] キーを、置換したくないときは [Space] キーを押してください。

[確認なし] 置換の確認をせず、すべての置換を一括で実行します。



その他に下記のような便利な機能があります。

- ・ [F2] 編集ファイルの現在のカーソル位置から、1 語ずつ順番に文字列を取り出して、検索文字列の最後に追加します。
- ・ [F10] 文字列カットバッファの内容を検索文字列の最後に追加します。
- ・ [PageUp] / [PageDown]
「検索文字列」「検索方法」「語単位で探す」をセットにした履歴を呼び出します。

「検索方法」と検索文字列・置換文字列の設定方法

設定された検索方法により、検索文字列と置換文字列の指定方法が異なります。
設定した検索方法を確認して、正しく設定してください。

各検索方法の特長

通常検索

単純に文字列を検索したいときには、この検索方法を設定してください。

ワイルドカード検索

*（任意の文字列）や?（任意の1文字）を利用して、文字列の一部分で検索します。
例えば、つづりの記憶があいまいな単語で「MI*」としたり、文字数と一部だけわかっている場合に「M???S」として検索します。

正規表現検索

特定の規則をもった記号を使って検索文字列を表現することで、検索の条件を指定して検索することができます。
例えば、記号を使い「NO[1-9]」と表現すると、「NO1」～「NO9」の9種類の文字列を検索することができます。

あいまい検索

日本語の検索に便利な検索方法です。
例えば、検索文字列を「えでいた」としたときには、「えでいた」の他に「エディタ」「イ`ィタ」も検索することができます。

各検索方法の詳細な設定方法は次のページ以降を参照してください。

通常検索

検索文字列の指定

通常検索では、単純に検索する文字列を検索文字列に指定します。

通常検索には、半角英字の大文字と小文字について、区別する検索方法（英大・小区別）と、区別しない方法（英大・小同一視）の2つの方法がありますが、どちらの検索方法でも検索文字列の指定方法は同じです。

通常検索においては、特殊な文字を以下のメタ文字（特殊な文字や検索パターンを示す記号）が使用できます。

メタ文字はすべて半角文字です。

記 号	意 味
\n	改行文字(CR&LF または LF)
\t	タブ文字（ハードタブ）
\s	半角スペース
\xXX	コード XX（16 進 2 桁）の文字 \x0a は \n と同じ、\x09 は \t と同じ
\\	半角文字 \

置換文字列の指定

検索方法で「通常検索」を設定した場合は、置換文字列に以下のメタ文字（特殊な文字や文字列パターンに展開することを指定するための記号）を指定することができます。

メタ文字はすべて半角文字です。

記 号	意 味
\0	見つけた文字列全体 「0」は数字の「ゼロ」です。
\#	見つけた文字列の位置の論理行番号を表す半角の 10 進文字列
\\$	何番目の置換位置かを表す半角の 10 進文字列
\n	改行文字（CR&LF または LF：標準の改行形式に依存）
\t	タブ文字（ハードタブ）
\s	半角スペース
\xXX	コード XX（16 進 2 桁）の文字。 任意の文字コードの指定が可能
\\	半角文字 \



「\」（バックスラッシュ）は環境により、「¥」で表示されることがあります。

ワイルドカード検索

検索文字列の指定

ワイルドカード検索では、検索文字列中にワイルドカード（* と ? ）を指定することができます。

それ以外は通常検索と同様に検索する文字列をそのまま検索文字列に指定します。ワイルドカード検索には、半角英字の大文字と小文字について、区別する検索方法と区別しない方法の2つの方法がありますが、どちらの検索方法でも検索文字列の指定方法は同じです。

ワイルドカード検索においては、以下のメタ文字（特殊な文字や検索パターンを示す記号）が使用できます。

メタ文字はすべて半角文字です。

記 号	検索できる文字
?	任意の1文字
*	0文字以上の任意の文字列
\n	改行文字（CR&LF または LF）
\t	タブ文字（ハードタブ）
\s	半角スペース
\xxx	コード XX（16進2桁）の文字 \x0a は \n と同じ、\x09 は \t と同じ
\c	半角文字 c \? * などのメタ文字を通常の文字として指定する場合に使用

置換文字列の指定

検索方法で「ワイルドカード検索」を設定した場合、置換文字列に使用可能なメタ文字（特殊な文字や文字列パターンに展開することを指定するための記号）は、通常検索の場合に使用可能なメタ文字に加えて、以下のメタ文字が使用できます。

記 号	意 味
\N	N=1～9 N 番目のワイルドカード（* または ? ）と一致した文字または文字列。 検索文字列とマッチした文字列の一部分を表すため「部分文字列」と呼ぶ。

正規表現検索

検索文字列の指定

正規表現検索においても、通常検索と同様、検索する文字列をそのまま検索文字列に指定します。

さらに、正規表現検索では多くのメタ文字が使用可能です。

正規表現検索では、以下のメタ文字（特殊な文字や検索パターンを示す記号）が使用できます。

メタ文字はすべて半角文字です。

記 号	意 味
^	行の先頭とマッチ
\$	行の最後とマッチ
.	半角ピリオドは任意の 1 文字とマッチ
*	直前のパターンの 0 回以上の繰り返しとマッチ
+	直前のパターンの 1 回以上の繰り返しとマッチ
#	語の先頭とマッチ
/	語の最後とマッチ
\s	半角スペースとマッチ
\t	タブ文字（ハードタブ）とマッチ
\n	改行文字（CR&LF または LF）とマッチ 文字範囲を指定する [] の中に改行文字は指定できない改行文字の直後にメタ文字 * および + は指定できない
[]	[と] で囲まれた中のいずれかの文字とマッチ 2 つの文字をハイフン - でつないで文字コード範囲での指定も可能
[^]	[^ と] で囲まれた中のいずれの文字でもない場合にマッチ
{ }	N 番目の { と } の対で囲まれた中のパターンとマッチした文字列を置換文字列の指定の際に \N として指定できるようにする。{ と } の対はネストすることはできない(N=1~9)
	正規表現の論理和を表す 左側または右側の正規表現とマッチすれば一致したとみなす
\xXX	コード XX（16 進 2 桁）の文字とマッチする
\c	半角文字 c とマッチ 正規表現用のメタ文字を通常の文字として指定したい場合に使用



直前の繰り返しを表すメタ文字 * や + をクロージャと呼びます。
MIFESのクロージャは短い文字列との一致を優先する弱クロージャです。
まず、できるだけ短い文字列との一致を調べ、一致しない場合にだけより長い文字列との一致を調べます。
これに対して、一般に UNIX 上の grep コマンドなどは、長い文字列との一致を優先する強クロージャです。

置換文字列の指定

検索文字列に正規表現検索を使用した場合には、置換文字列に使用可能なメタ文字（特殊な文字や文字列パターンに展開することを指定するための記号）は、通常検索の場合に使用可能なメタ文字に加えて、以下のメタ文字が使用できます。

記 号	意 味
\N	N=1 ~ 9 N 番目の { と } の対で囲まれた検索パターンと一致した文字列 検索文字列とマッチした文字列の一部分を表すため部分文字列と呼ぶ

あいまい検索

検索文字列の指定

あいまい検索では、さまざまな文字パターンの同一視（または無視）しながら検索を行います。日本語文字列の検索に便利です。以下に具体的にその同一視の例を示します。

- ・大文字と小文字を同一視する
例． A=a G=g M=m
- ・半角と全角を同一視する
例． 3=3 G=G
- ・かなとカナを同一視する
例． あ=ア が=ガ は=パ
- ・同種のデリミタ文字を同一視する
例． (= [= (= { = [= 「 =
- ・一部の記号文字およびスペースとタブを無視する
例． -/+ - / など無視する
- ・一部の濁音を同一視する
例． ズ=づ ブ=ヴ

あいまい検索においても以下のメタ文字（特殊な文字や検索パターンを示す記号）が使用できます。メタ文字はすべて半角文字です。

記 号	意 味
\n	改行文字（CR&LF または LF）とマッチ
\xXX	コード XX（16 進 2 桁）の文字とマッチする
\\	半角文字 \ とマッチ

置換文字列の指定

検索文字列にあいまい検索を使用した場合、置換文字列に使用可能なメタ文字（特殊な文字や文字列パターンに展開することを指定するための記号）は、通常検索の場合と同じです。

第5章

プリ / ポストプロセッサ



様々な文字コードのファイルを読み込み、場合によりコード変換して保存するための機能として、プリ / ポストプロセッサ機能があります。
この章では、各プロセッサについて説明します。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ / ポスト
プロセッサ

各機能の解説

プリプロセッサとポストプロセッサ

プリプロセッサは、ファイルを読み込む際に、ファイル中の文字コードをエディタの内部コードであるシフトJISコードに変換するために使用します。

ポストプロセッサは、ファイルに保存する際に、エディタの内部コードであるシフトJISコードを元の文字コードに戻すために使用します。

ポストプロセッサは、ファイルを開く際に指定した（または自動的に適用された）プリプロセッサに対応したものが自動的に設定されます。

このため、通常はプリプロセッサのみを指定し、ポストプロセッサを指定する必要はありませんが、ファイルの文字コードを変更したい場合には、ポストプロセッサを変更することもできます。



MIFES for Linux のプリ/ポストプロセッサは、文字コードを変換するためのものです。

MIFES for Windows の内部プリ/ポストプロセッサに相当するものです。MIFES for Windows のプリ/ポストプロセッサのように、さまざまな変換処理を行ったり、外部モジュールを追加することはできません。

以下に、MIFES for Linux のプリ/ポストプロセッサの処理について説明します。

【ポストプロセッサの設定】メニュー

```
ポストプロセッサの設定
1 | * Shift-JISファイル
2 |   Unicodeファイル
3 |   Unicode Big endian
4 |   EUCファイル
5 |   JISコードファイル
6 |   UTF-8ファイル
7 |   Macintoshファイル
```


自動設定

ファイル読み込み時の処理

ファイル名の拡張子部分が拡張子定義と一致すれば、その拡張子定義で指定されたプリプロセッサを適用します。

拡張子定義と一致しない場合、または一致した拡張子定義のプリプロセッサ指定が「自動設定」だった場合、「ファイル読み込み時の自動コード判定」が「許可」ならば、ファイルの内容（ファイル先頭の4 Kバイト）を調べてそのファイルの文字コードを判定し、その文字コードに対応したプリプロセッサを適用します。「ファイル読み込み時の自動コード判定」が「禁止」ならば、プリプロセッサ「EUC ファイル」を適用します。

Shift-JIS ファイル

ファイル読み込み時の処理

何も変換処理しません。

ファイル保存時の処理

何も変換処理しません。



16 進数で 80H 以上の文字として表示できないコードを含むファイルを編集する場合には、この「Shift-JIS ファイル」を設定して開いてください。
「Shift-JIS ファイル」として開いた場合、コード 00H ~ 0FFH までのすべてのデータがそのまま編集・保存可能です。（バイナリファイルでも編集可能です。）

「Shift-JIS ファイル」以外で開いた場合、文字として表示できない一部のデータが読み込み時に落とされてしまったり、シフトJISコードの漢字に相当する2バイトの非文字データが、カットバッファへの書き込み時やファイルへの保存時に漢字コード変換されてしまうことがあるため、コード 00H ~ 0FFH までのすべてのデータがそのまま編集・保存できるとは限りません。

これは、エディタの内部コードやカットバッファ上のコードなど、すべてシフトJISコードであることからかかる制約です。

Unicode ファイル

ファイル読み込み時の処理

UNICODE をシフト JIS コードに変換します。
シフト JIS コードに変換不可能な UNICODE は制御コード (0FFH) に変換し、
保存時には制御コード (0FFH) は削除します。
そのため、シフト JIS コードに変換不可能な UNICODE (英語と日本語以外の文字) を含んだファイルは事実上編集できません。

ファイル保存時の処理

シフト JIS コードを UNICODE に変換し、UNICODE に変換不可能なコードを削除します。
UNICODE に変換不可能なコードは、つぎのとおりです。

- ・ 80H ・ 81H ~ 9FH (漢字の 1 バイト目でないもの)
- ・ 0A0H ・ 0E0H ~ 0FCH (漢字の 1 バイト目でないもの)
- ・ 0FDH ・ 0FEH ・ 0FFH

なお、ファイルの先頭には BOM を書き込みます。



BOM (Byte Order Mark) の書き出しについて 58 ページ

Unicode Big endian

ファイル読み込み時の処理

UNICODE Big endian をシフト JIS コードに変換します。
UNICODE (正確には UNICODE Little endian) と UNICODE Big endian は、
UNICODE の上位 8 ビットと下位 8 ビットのバイトオーダー (バイト単位での配置
順序) を逆にしたものです。
UNICODE Little endian は下位 8 ビット、上位 8 ビットの順に、UNICODE Big
endian は上位 8 ビット、下位 8 ビットの順に格納します。

シフト JIS コードに変換不可能な UNICODE Big endian は、制御コード (0FFH) に変換し、保存時には制御コード (0FFH) は削除します。
そのため、シフト JIS コードに変換不可能な UNICODE Big endian (英語と日本語以外の文字) を含んだファイルは事実上編集できません。

ファイル保存時の処理

シフト JIS コードを UNICODE Big endian に変換し、UNICODE に変換不可能なコードを削除します。

UNICODE に変換不可能なコードは、つぎのとおりです。

- ・ 80H ・ 81H ~ 9FH (漢字の 1 バイト目でないもの)
- ・ 0A0H ・ 0E0H ~ 0FCH (漢字の 1 バイト目でないもの)
- ・ 0FDH ・ 0FEH ・ 0FFH

なお、ファイルの先頭には BOM を書き込みます。



BOM (Byte Order Mark) の書き出しについて 58 ページ

EUC ファイル

ファイル読み込み時の処理

EUC をシフト JIS コードに変換します。

ファイル保存時の処理

シフト JIS コードを EUC に変換します。



ガイドライン上にはカーソル位置の文字コードが表示されますが、この文字コードは、内部コードであるシフト JIS コードで表示されます。
ただし、ポストプロセッサ「EUC ファイル」が設定されているファイルのガイドライン上には、カーソル位置の文字コードは EUC で表示されます。

JIS コードファイル

ファイル読み込み時の処理

JIS コードをシフト JIS コードに変換します。

ファイル保存時の処理

シフト JIS コードを JIS コードに変換します。



漢字 IN	ESC \$ B または ESC \$ @
漢字 OUT	ESC (J または ESC (B
半角カナ	SO と SI で囲む

UTF-8 ファイル

ファイル読み込み時の処理

UTF-8 コードをシフト JIS コードに変換します。

ファイル保存時の処理

シフト JIS コードを UTF-8 コードに変換します。なお、ファイルの先頭には BOM を書き込みます。



BOM (Byte Order Mark) の書き出しについて 58 ページ

Macintosh ファイル

ファイル読み込み時の処理

CR コード (0DH) を改行文字 (0AH) に変換します。

ファイル保存時の処理

改行文字 (0AH または 0DH, 0AH) を CR コード (0DH) に変換します。



BOM (Byte Order Mark) の書き出しについて

Unicode ファイル、Unicode Big endian、UTF-8 ファイルのポストプロセッサでは、ファイル保存時にファイルの先頭に BOM(Byte Order Mark)を書き出します。これは、そのファイルがどんな文字コードでどんな順序で記録されているかを表すものです。この BOM がないと、ファイル内容による自動コード判定が正確にできない場合があります。

しかし、アプリケーションによっては、ファイルの先頭に BOM があると、ファイルの内容を正しく認識できないものもあるため、BOM を書き出さないように設定することができます。

ワークディレクトリ上のプロファイル・ファイル「mi.ini」中のキーワード「SYSMODE」の数値をつぎのとおり変更します。

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| ・ Unicode ファイルの保存時 | ビット 20(0x00100000)を 0 にします。 |
| ・ Unicode Big endian ファイルの保存時 | ビット 21(0x00200000)を 0 にします。 |
| ・ UTF-8 ファイルの保存時 | ビット 22(0x00400000)を 0 にします。 |

第 6 章

各機能の解説



MIFES for Linux のほとんどの機能には「機能番号」が付けられています。
この章では、MIFES for Linux の機能を機能番号順に解説します。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセッサ

各機能の解説

機能番号一覧について

MIFES for Linux の機能を、機能番号順に説明します。

機能番号の下（左側）の【 】の中は、機能の実行キー操作で、それぞれ以下の例のように操作してください。

なお、本章で記述しているキー操作は、初期導入時の「mi.config」ファイルで定義されたカスタマイズ状態のキー設定です。キー設定を変更している場合は、この限りではありません。

例：

- ・【Ctrl+A】 [Ctrl] キーを押しながら [A] を押してください。
- ・【Ctrl+A-B】 [Ctrl] キーを押しながら [A] を押したあと、[B] を押してください。
- ・【F1-B-C】 [F1] キーを押したあと、[B]、[C] を続けて押してください。
- ・【Ctrl+A】 キー操作が 2 つ記述してある機能があります。
 【 】 いずれかのキー操作で実行してください。
- ・【Insert】 キー操作が 3 つ記述してある機能があります。
 【Ctrl+A】 いずれかのキー操作で実行してください。
 【 I 】

機能番号一覧

機能番号 0 : 無操作

何も実行しません。

機能番号 0 が割り当てられたキー操作は【キー操作一覧】メニューには表示されません。

機能番号 1 : カーソルを 1 語後方 () に移動する

【Ctrl+A】 | カーソルを 1 語分後方 () に移動します。

機能番号 2 : カーソルを行の端に移動する

【Ctrl+B】 | カーソルを行の左端に移動します。
すでに行の左端にある場合には行の右端に移動します。

機能番号 3 : カーソルを半画面または 1 画面分 方向に移動する

【Ctrl+C】 | カーソルを半画面または 1 画面分 方向に移動します。
【PageDown】 | 半画面になるか 1 画面になるかは、【その他の環境の設定】メニュー中の「PageUp / PageDown 動作 1 回での移動量」項目で指定します。

機能番号 4 : カーソルを 1 文字右 () に移動する

【Ctrl+D】 | カーソルを 1 文字右 () に移動します。
【 】

機能番号 5 : カーソルを 1 行上 () に移動する

【Ctrl+E】 | カーソルを 1 行上 () に移動します。
【 】

機能番号 6 : カーソルを 1 語前方 () に移動する

【Ctrl+F】 | カーソルを 1 語前方 () に移動します。
【 】

機能番号 7 : カーソル位置の 1 文字を削除する (削除文字スタックへ)

【Ctrl+G】 | カーソル位置の 1 文字を削除します。
【Delete】 | 削除した文字は削除文字スタックへ移動します。
削除文字スタックから 1 文字取り出してカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+P】
(機能番号 16) と組み合わせて使用すると、1 文字単位で文字の移動ができます。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセスサ

各機能の解説

機能番号 8 : カーソル直前の 1 文字を削除する (削除文字スタックへ)

【Ctrl+H】	カーソル直前の 1 文字を削除します。
【Bs】	削除した文字は削除文字スタックへ移動します。 削除文字スタックから 1 文字取り出してカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+P】 (機能番号 16) と組み合わせて使用すると、1 文字単位で文字の移動ができます。

機能番号 9 : カーソル位置にタブを挿入/次のタブストップ位置に移動する

【Ctrl+I】	[挿入]状態ではカーソル位置にタブ文字 (コード 09H) を挿入します。
【Tab】	ソフトタブ動作が ON の時には、次のタブストップ位置まで半角スペースを挿入します。 「上書」状態では次のタブストップ位置までカーソルを移動します。

機能番号 10 : 行削除スタックから 1 行取り出してカーソル行の上に挿入する

【Ctrl+Q-N】	行削除スタックから 1 行取り出してカーソル行の上に挿入します。 カーソル行を削除する機能【Ctrl+Y】(機能番号 25) と組み合わせて使用すると、1 ~ 50 行程度のブロックを移動することができます。
------------	--

機能番号 11 : カーソル位置から行末までを削除 (削除文字列バッファへ)

【Ctrl+K】	カーソル位置から行末までの文字列を削除します。 行末の改行文字は削除しません。 削除した文字列は削除文字列バッファへ移動します。 削除文字列バッファの内容をカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+L】(機能番号 12) と組み合わせて使用すると、文字列の移動やコピーができます。
----------	--

機能番号 12 : 削除文字列バッファの内容をカーソル位置に挿入する

【Ctrl+L】	削除文字列バッファの内容をカーソル位置に挿入します。 カーソル行を削除する機能【Ctrl+Y】(機能番号 25) と組み合わせて使用すると、1 行単位で行の移動やコピーができます。 カーソル位置から行末までを削除する機能【Ctrl+K】(機能番号 11) や、行頭から カーソルの直前までを削除する機能【Ctrl+U】(機能番号 21) と組み合わせて使用 すると、文字列の移動やコピーができます。
----------	--

機能番号 13 : 改行文字の挿入 / カーソル位置の改行

【Ctrl+M】	[挿入] 状態ではカーソル位置に改行文字を挿入します。
【Enter】	オートインデントが ON の時には、改行後の行頭のスペース量がその上の行と同じ になるように自動的にインデント (段下げ) します。 [上書] 状態では 1 行下の行の左端にカーソルを移動します。

機能番号 14：指定の機能番号を実行する

【Ctrl+Q-X】 機能番号で実行したい機能を指定します。

1～91までの機能番号が指定できます。

なお、特別な機能番号として200を指定すると、現在のカスタマイズ状態をワークディレクトリ上のファイル「mi.config」に書き出します。ファイル「mi.config」をなくしてしまった場合に利用してください。

ただし、初期導入時の「mi.config」に書き込まれている豊富なコメント記述までは書き出しませんので、配布時の「mi.config」ファイルはなくさないように注意してください。



ワークディレクトリ 4 ページ

機能番号 15：キーボードマクロ定義の開始または終了

【Ctrl+W】 キーボードマクロの定義を開始し、定義中には定義を終了します。

定義したキーボードマクロは、キーボードマクロの実行機能【Ctrl+Z】（機能番号81）で実行できます。



キーボードマクロの英字バッファ登録

「キーボードマクロの英字バッファ登録」が[有効]に設定されている場合は、キーボードマクロの定義終了時に、「英字バッファ一覧」ウィンドウ（下図）が表示され、英字バッファを指定する操作をユーザーに促します。

英字バッファを指定する操作以外の操作を行うと、「英字バッファ一覧」ウィンドウを終了し、英字バッファに登録は行いません。



機能番号 16：削除文字スタックから 1 文字取り出してカーソル位置に挿入する

【Ctrl+P】 削除文字スタックから 1 文字取り出してカーソル位置に挿入します。
カーソル位置の 1 文字を削除する機能【Delete】（機能番号 7）や、カーソル直前の 1 文字を削除する機能【Bs】（機能番号 8）と組み合わせて使用すると、1 文字単位で文字の移動ができます。

機能番号 17：カーソル位置の括弧に対応する括弧を検索する

【Ctrl+Q】 カーソル位置の半角の括弧 [{ () }] に対応する括弧の位置に、カーソルをジャンプさせます。

機能番号 18：カーソルを半画面または 1 画面分 方向に移動する

【Ctrl+R】 カーソルを半画面または 1 画面分 方向に移動します。
【PageUp】 半画面になるか 1 画面になるかは、【その他の環境の設定】メニュー中の [PageUp / PageDown 動作 1 回での移動量] 項目で指定します。

機能番号 19：カーソルを 1 文字左 () に移動する

【Ctrl+S】 カーソルを 1 文字左 () に移動します。
【 】

機能番号 20：カーソル位置からの 1 語を削除 (削除文字スタックへ)

【Ctrl+T】 カーソル位置からの 1 語分の文字列を削除します。
削除した文字列は左から順に削除文字スタックへ移動します。
削除文字スタックから 1 文字取り出してカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+P】（機能番号 16）と組み合わせて使用すると、1 文字単位で文字の移動ができます。

機能番号 21：行頭からカーソルの直前までを削除 (削除文字列バッファへ)

【Ctrl+U】 行頭からカーソルの直前までの文字列を削除します。
削除した文字列は削除文字列バッファへ移動します。
削除文字列バッファの内容をカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+L】（機能番号 12）と組み合わせて使用すると、文字列の移動やコピーができます。

機能番号 22：指定した文字コードをカーソル位置に入力する

【Ctrl+Q-V】 指定した文字コードをカーソル位置に入力します。
文字として表示できないコード（非文字コード）も入力できます。
文字コードを 16 進数で指定する場合には、頭に「0x」を付けて指定します。

機能番号 23 : 挿入 / 上書き状態の切り換え

【Insert】 「挿入」状態と「上書き」状態を切り換えます。
【Ctrl+Q-I】

機能番号 24 : カーソルを 1 行下 () に移動する

【Ctrl+X】 カーソルを 1 行下 () に移動します。
【 】

機能番号 25 : カーソル行を削除 (削除文字列バッファ & 行削除スタックへ)

【Ctrl+Y】 カーソル行を削除します。改行文字まで含めて行全体を削除します。
削除した文字列は削除文字列バッファへ移動します。
削除文字列バッファの内容をカーソル位置に挿入する機能【Ctrl+L】(機能番号 12) と組み合わせて使用すると、1 行単位で行の移動やコピーができます。

機能番号 26 : U N D O (直前の編集操作の取り消し)

【Ctrl+Q-U】 U N D O (直前の編集操作の取り消し) を実行します。
【F3-U】

機能番号 27 : R E D O (直前の U N D O の取り消し)

【Ctrl+Q-R】 R E D O (直前の U N D O の取り消し) を実行します。
【F3-D】

機能番号 28 : カーソル位置の半角英小文字を大文字に変換して次の文字へ移動

【Ctrl+Q-L】 カーソル位置の半角英小文字を大文字に変換し、カーソルを次の文字へ移動します。

機能番号 29 : カーソル位置の半角英大文字を小文字に変換して次の文字へ移動

【Ctrl+Q-S】 カーソル位置の半角英大文字を小文字に変換し、カーソルを次の文字へ移動します。

機能番号 30：タグジャンプ：カーソル行の内容が示すファイルの行へ移動

【F11】

カーソル行の内容がタグジャンプ可能な書式ならば、タグジャンプ（カーソル行の内容が示すファイルの行へのジャンプ）を実行します。

カーソル行の内容がタグジャンプ不可能な場合には、バックタグジャンプ（最後にタグジャンプを実行した時のジャンプ元のファイルへのジャンプ）を実行します。

タグジャンプ可能な書式には、以下の4つのパターンをサポートしています。

ファイル名 行番号: 行の内容

ファイル名(行番号) エラーコード 行の内容

ファイル名 行番号 行の内容

ファイル名:行番号:行の内容

（上記 マークは1つ以上の半角スペースまたはタブを表しています。

また、ファイルの先頭の行番号は1です。

行番号に0が指定された場合には、ファイルの切り換えのみを行いジャンプ動作は行いません。

なお、行番号は必ず半角の10進数で指定してください。）

機能番号 31：カーソル行の上に指定のファイルを挿入する

【F1-I】

カーソル行の上に指定のファイルを挿入します。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 32：指定したファイルを開く

【F1-O】

指定したファイルを開きます。

ファイル名の入力画面において、何も入力、選択せずに [Enter] キーを押すと、新規ファイルとしてファイル名を特定せずに開くこともできます。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 33：編集中のファイルをディスクへ保存する

【F1-S】

カレントファイル（現在編集中のファイル）をディスクへ保存します。編集は続きます。

カレントファイルのファイル名が未確定の場合には、保存すべきファイル名を入力する画面が表示されます。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 34 : 編集中のファイルを閉じる

- 【F1-Q】 カレントファイル（現在編集中のファイル）を保存せずに閉じます。
カレントファイルに変更操作がある場合には、確認のためのメッセージが表示されます。このメッセージに [Y] で応答するとファイルを閉じます。

機能番号 35 : 編集中のファイルをディスクへ保存して閉じる

- 【F1-E】 カレントファイル（現在編集中のファイル）を保存して閉じます。
カレントファイルのファイル名が未確定の場合には、保存すべきファイル名を入力する画面が表示されます。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 36 : 編集中のファイルを開き直す（編集のやり直し）

- 【F1-G】 カレントファイル（現在編集中のファイル）で行われたすべての変更操作を無効にしてファイルを開き直します。
この時、プリプロセッサの指定を変更することができます。
プリプロセッサの指定を「自動設定」でファイルを開いた際に、誤ったプリプロセッサが適応された場合など、この機能を使用してプリプロセッサの指定を変更することができます。
ファイルを開き直さずにプリプロセッサを変更することはできません。

機能番号 37 : ポストプロセッサを確認 / 変更する

- 【F1-P】 カレントファイル（現在編集中のファイル）のポストプロセッサ設定を変更します。
ファイルを読み込んだ時とは別の文字コードで保存したい場合などに使用します。

機能番号 38 : 編集中のファイルを名前を付けてディスクへ保存する

- 【F1-A】 カレントファイル（現在編集中のファイル）を指定のファイルに保存します。
カレントファイルのファイル名は指定したファイル名に変更されます。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 39 : すべてのファイルを閉じる

- 【F1-X】 開いているすべてのファイルを保存せずに閉じます。
変更操作のあるファイルが1つ以上ある場合には、確認のためのメッセージが表示されます。このメッセージに [Y] で応答するとすべてのファイルを閉じます。

機能番号 40 : すべてのファイルをディスクへ保存して閉じる

- 【F1-B】 | 開いているすべてのファイルを保存して閉じます。
変更操作のないファイルについては実際の保存は行ないません。
開いているファイル中にファイル名の未確定のものがある場合には、保存すべき
ファイル名を入力する画面が表示されます。



ファイル名入力画面におけるキー操作 16 ページ

機能番号 41 : 指定の行番号へジャンプする

- 【F3-N】 | 指定の行番号の行へカーソルをジャンプします。
なお、ジャンプ先が離れている場合には、[Ctrl] + [C] キーでジャンプ動作を中止することができます。

機能番号 42 : 指定のバイト位置へジャンプする

- 【F3-J】 | 指定のバイト位置へカーソルをジャンプします。
なお、ジャンプ先が離れている場合には、[Ctrl] + [C] キーでジャンプ動作を中止することができます。

機能番号 43 : ファイルの先頭にジャンプする【F3,T】

- 【F3-T】 | ファイルの先頭にカーソルをジャンプします。
なお、ジャンプ先が離れている場合には、[Ctrl] + [C] キーでジャンプ動作を中止することができます。

機能番号 44 : ファイルの最後尾にジャンプする

- 【F3-B】 | ファイルの最後尾にカーソルをジャンプします。
【Ctrl+Q-C】 | なお、ジャンプ先が離れている場合には、[Ctrl] + [C] キーでジャンプ動作を中止することができます。

機能番号 45 : 検索やジャンプの直後に元の位置に戻る

- 【F3-5】 | ジャンプ、検索、括弧の検索、などの直後に、カーソルを元の位置に戻すために使用します。

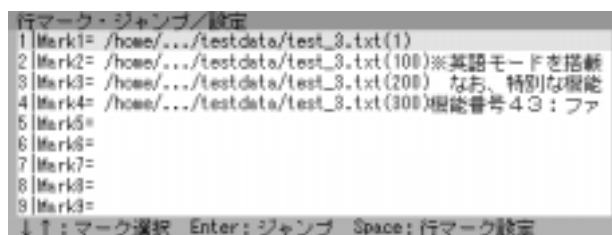
機能番号 46 : 行マークの設定 / 行マークへのジャンプ【F3,M】

【F3-M】

【行マーク・ジャンプ / 設定】メニューを表示します。

ここで、行マーク 1~行マーク 9 のいずれかを選択して [Enter] キーを押すと、選択した行マークへジャンプします。

また、行マーク 1~行マーク 9 のいずれかを選択して [Space] キーを押すと、現在のカーソル行を選択した行マークに登録します。



```
行マーク・ジャンプ / 設定
1 Mark1= /home/.../testdata/test_3.txt(1)
2 Mark2= /home/.../testdata/test_3.txt(100)※英語モードを搭載
3 Mark3= /home/.../testdata/test_3.txt(200) なお、特別な機能
4 Mark4= /home/.../testdata/test_3.txt(300)機能番号43: ファ
5 Mark5=
6 Mark6=
7 Mark7=
8 Mark8=
9 Mark9=
↓↑:マーク選択 Enter:ジャンプ Space:行マーク設定
```

機能番号 47 : 指定した文字列の検索 (方向)

【F3-F】

指定した文字列をカーソル位置から 方向に検索します。

【Ctrl+Q-F】

カーソル位置は検索の対象にはなりません。

なお、検索範囲が大きい場合には、[Ctrl] + [C] キーで検索動作を中止することができます。

機能番号 48 : 指定した文字列の検索 (方向)

【F3-W】

指定した文字列をカーソル位置から 方向に検索します。

【Ctrl+Q-B】

カーソル位置は検索の対象にはなりません。

なお、検索範囲が大きい場合には、[Ctrl] + [C] キーで検索動作を中止することができます。

機能番号 49 : 最後に検索した文字列を 方向に再検索する

【F5】

最後に検索した文字列を、カーソル位置から 方向に再検索します。

カーソル位置は検索の対象にはなりません。

なお、検索範囲が大きい場合には、[Ctrl] + [C] キーで検索動作を中止することができます。

機能番号 50 : 最後に検索した文字列を 方向に再検索する

【F4】

最後に検索した文字列を、カーソル位置から 方向に再検索します。

カーソル位置は検索の対象にはなりません。

なお、検索範囲が大きい場合には、[Ctrl] + [C] キーで検索動作を中止することができます。

ご使用になる前に

基本操作

設定

検索と置換

プリ/ポスト
プロセス

各機能の解説

機能番号 51：文字列の連続置換

- 【F3-R】 カーソル位置から 方向に、指定した検索文字列を指定した置換文字列に連続して置換します。
カーソル位置も置換の対象になります。
ファイル全体に対して置換を実行したい場合は、カーソルをファイルの先頭に移動してから、この機能を実行してください。
なお、連続置換の入力画面において、[PageUp] キーまたは [PageDown] キーを押すと、検索文字列または置換文字列の履歴を前後に呼び出すことができます。
- 置換の確認操作ありの場合、検索文字列を見つけると、そこでキー入力待ち状態になります。ここで以下のキー操作で、いずれかを実行します。
- [Enter] 置換を実行し、次の検索に移る
 - [Space] 置換せずに次の検索に移る
 - [End] 連続置換を中止する
 - [Ctrl] + [C] 連続置換を中止する
 - [Bs] ひとつ前にもどる (UNDO)
 - [Ctrl] + [A] 以降は確認なしですべて置換する
- 連続置換の検索中に [Ctrl] + [C] キーで検索動作と連続置換を中止します。
この場合、確認付きの連続置換の場合でも確認操作に入らずに中止します。

機能番号 52：最後に実行した文字列の連続置換を再実行する

- 【F3-C】 最後に実行した文字列の連続置換を、カーソル位置から 方向に再実行します。
カーソル位置も置換の対象になります。
ファイル全体に対して置換を実行したい場合には、カーソルをファイルの先頭に移動してから、この機能を実行してください。

機能番号 53：ファイル名の履歴をメニュー表示する

- 【F1-F】 【ファイル名の履歴】メニューを表示します。
- 【F2-F】 ここで、ファイル名を選択して [Enter] キーを押せば、そのファイルを開くことができます。
- すでに開かれているファイル名（頭に「 * 」が付いたファイル名）を選択した場合には、そのファイルにジャンプします。
- なお、ファイルを開いた場合、そのファイルの最後の編集位置に自動的にジャンプします。

機能番号 54 : 行単位での範囲選択を開始 / 中止

【F6】

行単位での範囲選択状態「行範囲選択中」に入ります。
 範囲選択を開始した直後にもう一度同じキー（[F6]キー）を押すと、文字列単位での範囲選択状態「文字列選択中」に切り替わります。
 範囲選択を開始した直後に[Enter]キーを押すと、箱型での範囲選択状態「箱型選択中」に切り替わります。
 それ以外の状態で同じキー（[F6]キー）を押すと、範囲選択を中止します。
 選択単位と、移動またはコピーされるカットバッファは次のとおりです。
 なお、各カットバッファの実体はワークディレクトリ上の各ファイルです。

行単位	行カットバッファ「mi\$lcut.txt」
文字列	単位文字列カットバッファ「mi\$scut.txt」
箱型	箱型カットバッファ「mi\$bcut.txt」



ワークディレクトリ 4 ページ

直接文字列単位での範囲選択状態「文字列選択中」に入る機能（機能番号 55）、
 直接に箱型単位での範囲選択状態「箱型選択中」に入る機能（機能番号 93）もあり
 ます。行単位よりも文字列単位での編集を頻繁に使用する場合は、機能番号 55 や
 93 を [F6] キーに割り当てると使いやすくなります。



行範囲選択の開始時に最下行に表示されるメッセージが不要な場合には、このメッ
 セージを非表示にすることができます。
 プロファイル・ファイル「mi.ini」中のキーワード「SYSMODE」のビット 29
 (0x20000000) を 1 に設定してください。

機能番号 55 : 文字列単位での範囲選択を開始 / 中止

【F6-F6】

文字列単位での範囲選択状態「文字列選択中」に入り、すでに範囲選択状態では、
 範囲選択を中止します。
 文字列単位で選択された範囲は文字列カットバッファに移動またはコピーされます。
 文字列カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル「mi\$scut.txt」です。

機能番号 56 : 範囲選択を切り取る (カットバッファへ)

【F7】

行、文字列、箱型のいずれの場合も、選択された範囲を切り取り、それぞれのカッ
 トバッファへ移動します。
 なお、各カットバッファの実体はワークディレクトリ上の次のファイルです。

行単位選択時	「mi\$lcut.txt」
文字列単位選択時	「mi\$scut.txt」
箱型単位選択時	「mi\$bcut.txt」

機能番号 57：範囲選択をコピー（ カットバッファへ）

- 【F8】 行、文字列、箱型のいずれの場合も、選択された範囲を切り取り、それぞれのカットバッファへコピーします。
- なお、各カットバッファの実体はワーディレクトリ上の次のファイルです。
- | | |
|----------|----------------|
| 行単位選択時 | 「mi\$lcut.txt」 |
| 文字列単位選択時 | 「mi\$scut.txt」 |
| 箱型単位選択時 | 「mi\$bcut.txt」 |

機能番号 58：行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入する

- 【F9】 行カットバッファの内容をカーソル行の上に挿入します。
- 行カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル「mi\$lcut.txt」です。

機能番号 59：文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入する

- 【F10】 文字列カットバッファの内容をカーソル位置に挿入します。
- 文字列カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル「mi\$scut.txt」です。

機能番号 60：新規作成のファイルを開く

- 【F1-0-Enter】 ファイル名を指定せずに新規作成のファイルを開きます。
- 【F2-0-Enter】

機能番号 61：画面全体を再表示する（画面サイズの変更有効）

- 【Ctrl+Q-P】 画面全体を再表示します。
- この時、現在の画面サイズを再取得して表示領域の変更を行います。
- 画面の表示が乱れた場合に使用してください。

機能番号 62：メニュー1（【ファイル】メニュー）の呼び出し

- 【F1】 メニュー1（【ファイル】メニュー）を表示します。



メニュー選択時のキー操作 14 ページ

機能番号 63：メニュー2（【ジャンプ/検索】メニュー）の呼び出し

- 【F3】 メニュー2（【ジャンプ/検索】メニュー）を表示します。



メニュー選択時のキー操作 14 ページ

機能番号 64 : メニュー3 の呼び出し

メニュー3を表示します。
メニュー3にはデフォルトでは何も定義されていません。
ユーザーがメニュー3をカスタマイズしている場合にだけ、この機能は有効です。

機能番号 65 : メニュー4 の呼び出し

メニュー4を表示します。
メニュー4にはデフォルトでは何も定義されていません。
ユーザーがメニュー4をカスタマイズしている場合にだけ、この機能は有効です。

機能番号 66 : メニュー5 の呼び出し

メニュー5を表示します。
メニュー5にはデフォルトでは何も定義されていません。
ユーザーがメニュー5をカスタマイズしている場合にだけ、この機能は有効です。

機能番号 67 : メニュー6 の呼び出し

メニュー6を表示します。メニュー6にはデフォルトでは何も定義されていません。
ユーザーがメニュー6をカスタマイズしている場合にだけ、この機能は有効です。

機能番号 68 : メニュー7 の呼び出し

メニュー7を表示します。
メニュー7にはデフォルトでは何も定義されていません。
ユーザーがメニュー7をカスタマイズしている場合にだけ、この機能は有効です。

機能番号 69：キー操作の一覧メニューを表示する

【F1-H】

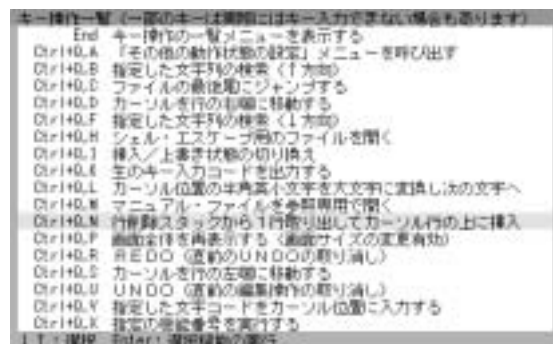
【キー操作一覧】メニューを表示します。

このメニューからキー操作を選択して [Enter] キーを押せば、そのキー操作に定義された機能を実行することができます。

なお、機能番号 0 が割り当てられたキー操作は【キー操作一覧】メニューには表示されません。

また、【キー操作一覧】メニュー中にあるキー操作でも、一部のキー操作（ [Ctrl] + [@] キーや [Ctrl] + [_] キーなど）については、環境によってはキー入力コードが発生せず、実際には使用できない場合もあります。

実際には使用できないキー操作も、【キー操作一覧】メニューから選択して実行することができます。



機能番号 70：【表示 & 動作状態の設定】メニューを呼び出す

【F1-D】

【表示 & 動作状態の設定】メニューを表示します。



表示 & 動作状態の設定 24 ページ

メニュー選択時のキー操作 14 ページ

機能番号 71：【その他の環境の設定】メニューを呼び出す

【F1-V】

【その他の環境の設定】メニューを表示します。



その他の環境の設定 31 ページ

メニュー選択時のキー操作 14 ページ

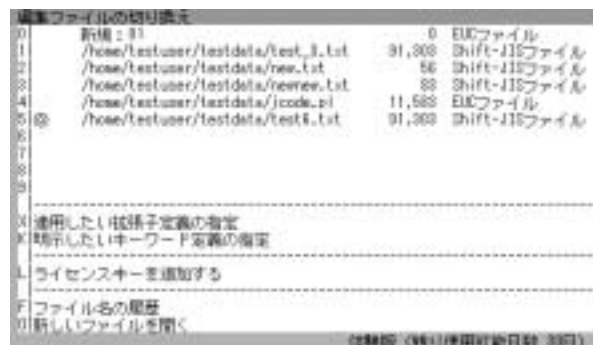
機能番号 72 : 開いているファイル名の一覧を表示する

【F2】

開いているファイル名の一覧を表示します。

この一覧はメニューであり、ファイル名を選択して [Enter] キーを押すと、そのファイルにジャンプすることができます。

また、空白の項目を選択して [Enter] キーを押すと、新しいファイルを開くことができます。



機能番号 73 : 適用したい拡張子定義の指定

【F2-X】

【適用したい拡張子定義の指定】メニューを表示します。

ここで拡張子定義を選択して [Enter] キーを押すと、カレントファイルの編集をやり直す（ファイルを開き直す）ことができます。

この時、ファイル名の拡張子とは関係なく、選択した拡張子定義が適用されます。



機能番号 74：明示したいキーワード定義の指定

【F2-K】

【明示したいキーワード定義の指定】メニューを表示します。

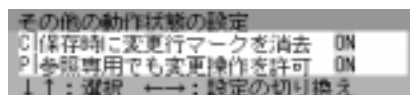
ここで明示キーワード定義を選択して [Enter] キーを押すと、カレントファイルに対して、指定した明示キーワード定義でキーワード明示を行います。



機能番号 75：【その他の動作状態の設定】メニューを呼び出す

【Ctrl+Q-A】

【その他の動作状態の設定】メニューを表示します。



表示 & 動作状態の設定 24 ページ

メニュー選択時のキー操作 14 ページ

機能番号 76：画面のスプリット形状を環状に切り換える

【F12】

2つ以上のファイルを開いている場合に、画面のスプリット形状を環状に切り換えます。

画面がスプリット（2分割）していない状態も1つのスプリット形状と見なして、スプリット形状を切り換えます。

画面スプリットには、上下スプリットと左右スプリットの2つがあります。どちらのスプリットを使用するかは、【その他の環境の設定】メニュー（機能番号 75）の「画面スプリットの形状」項目で指定します。

機能番号 77：カーソル行を二重化する

【Ctrl+N】

カーソルのある行を、カーソル位置で複写（二重化）します。

機能番号 78 : グローバル検索を実行する

【F3-G】

グローバル検索を実行します。

検索対象のファイルが開いているファイルの場合は、開いているファイルの内容を検索します。

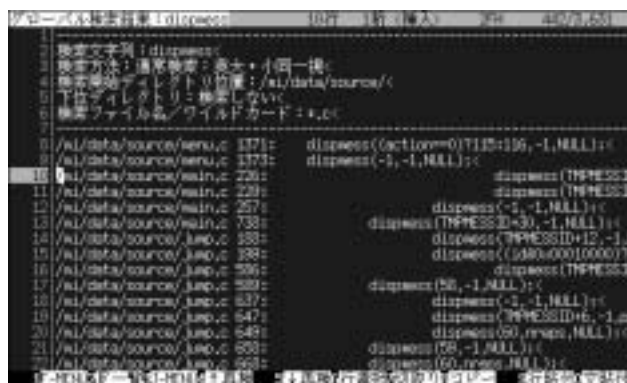
なお、グローバル検索条件の入力画面において、検索文字列の行にカーソルがある時に [PageUp] キーまたは [PageDown] キーを押すと、検索文字列の履歴を前後に呼び出すことができます。

また、検索開始ディレクトリ位置または検索ファイル名の行にカーソルがある時に [PageUp] キーまたは [PageDown] キーを押すと、グローバル検索履歴を前後に呼び出すことができます。



グローバル検索履歴には、検索開始ディレクトリ位置、検索ファイル名、下位ディレクトリ設定の3つの情報がセットになった情報として保持されていますので、グローバル検索履歴を呼び出すと、検索開始ディレクトリ位置と検索ファイル名と下位ディレクトリの設定が同時に設定されます。

検索結果はまとめて新たなファイルにタグジャンプが可能なフォーマットで出力されます。先頭には検索の各種条件が出力されます。同一行内で2つ以上の文字列を見つけた場合でも、結果は1行分しか出力されません。タグジャンプについては機能番号 30 をご参照ください。



機能番号 79：シェル・エスケープ用のファイルを開く

- 【F1-C】 シェル・エスケープ用のファイル「シェル・エスケープ」を開きます。
- 【Ctrl+Q-H】すでに「シェル・エスケープ」ファイルが開かれている場合には、そのファイルにジャンプします。
- 「シェル・エスケープ」ファイル上で [Enter] キーを押すと、その行の内容（行頭のプロンプトを除いた文字列）を実行したいコマンドの指定と見なし、そのコマンドを子プロセスとして実行します。
- その際、子プロセスの標準入出力をパイプで繋がります。これにより、子プロセスの出力を「シェル・エスケープ」ファイル中に取り込むことができます。
- また、子プロセスの実行終了を待っている間は、「シェル・エスケープ」上で入力されたキー入力情報はパイプに書き出されます（子プロセスの標準入力に与えられる）。
- 「シェル・エスケープ」ファイル上で子プロセスの実行終了を待っている間に [Ctrl] + [C] キーを押すと、子プロセスを強制終了させ、子プロセスの終了待ち状態から抜け出します。

機能番号 80：1 文字の挿入 / 上書き

- 【文字キー】この機能は絶対に特定のキーに割り当てないでください。この機能をキーに割り当てるとおかしな動作をします。

機能番号 81：キーボードマクロの実行

- 【Ctrl+Z】最後に定義されたキーボードマクロを実行します。

機能番号 82：英字バッファの呼び出し / 文字列の登録

- 【Ctrl+V】指定した英字バッファ内の文字列をカーソル位置に挿入します。
- 範囲選択中の場合には、選択範囲の文字列を指定した英字バッファに登録します。



機能番号 83：変更のある行を 方向に検索する

【F3-H】 | カーソルの次の行から変更操作のある行を 方向に検索します。
カーソル行は検索の対象にはなりません。

機能番号 84：直前に編集していたファイルに移動する

【Home】 | 直前に編集していたファイルにジャンプします。

機能番号 85：行ゲージの表示 / 非表示の切り換え

| カレントファイルに対して、行ゲージの表示 / 非表示を切り換えます。

機能番号 86：桁ゲージの表示 / 非表示の切り換え

| カレントファイルに対して、桁ゲージの表示 / 非表示を切り換えます。

機能番号 87： 方向に高速スクロールする

カーソルを 方向に高速に移動します。
この時、カーソルがウィンドウの上端（またはスクロールマージン内）に達しなくても、その場で高速にスクロールします。
どの程度高速にスクロールさせるかは、【表示 & 動作状態の設定】メニュー（機能番号 70）中の「キーリピート時の移動速度」項目で指定します。
「1 倍速」の場合は通常速度での移動と同じ速度ですが、画面内のカーソルの位置に関わらず、その場でスクロールする点が通常の 方向移動（機能番号 5）とは異なります。
この機能は、DOS 版 MIFES において [Shift] + [] キーに割り当てられていた機能ですが、Linux のデフォルトのキーマップ環境では [Shift] + [] キーが入力できないため、通常はキーに割り当てられていません。

機能番号 88： 方向に高速スクロールする

カーソルを 方向に高速に移動します。
この時、カーソルがウィンドウの下端（またはスクロールマージン内）に達しなくとも、その場で高速にスクロールします。どの程度高速にスクロールさせるかは、【表示 & 動作状態の設定】メニュー（機能番号 70）中の「キーリピート時の移動速度」項目で指定します。
「1 倍速」の場合は通常速度と同じ速度ですが、画面内のカーソルの位置に関わらず、その場でスクロールする点が通常の 方向移動（機能番号 24）とは異なります。
この機能は、DOS 版 MIFES において [Shift] + [] キーに割り当てられていた機能ですが、Linux のデフォルトのキーマップ環境では [Shift] + [] キーが入力できないため、通常はキーに割り当てられていません。

機能番号 89：マニュアル・ファイルを参照専用で開く

- 【Ctrl+Q-M】 マニュアル・ファイルを参照専用で開きます。
マニュアル・ファイルがすでに開かれている場合には、そのファイルにジャンプします。
- なお、マニュアル・ファイルは、ワークディレクトリ上にある「mi.txt」というファイルです。



ワークディレクトリ 4 ページ

機能番号 90：カーソルを行の左端に移動する

- 【Ctrl+Q-S】 カーソルを行の左端に移動します。

機能番号 91：カーソルを行の右端に移動する

- 【Ctrl+Q-D】 カーソルを行の右端に移動します。

機能番号 92：生のキー入力コードを出力する

- 【Ctrl+Q-K】 ユーザーがキー入力したキーの生のコードをテキスト中に出力します。
- 現在のキーマップ環境において、どのキーを押すとどのようなキーコードが発生するのかを調べることができます。C S I シーケンスなどのキー入力コードを調べる場合に使用してください。
- [Enter] キーで改行し、[Ctrl] + [C] キーで終了します。漢字を入力しても強制的に終了します。
- なお、コードは1バイトずつ出力します。
- コード 0x20 と 0x7f は 16 進数で、それ以外の制御コード (0x20 未満のコード) は ^@、^A ~ ^Z、^[, ^\、^], ^_, ^_ で、それ以外のコードはその文字で出力します。
- また、キー入力の区切り位置には半角スペースを出力します。

機能番号 93：箱型単位での範囲選択を開始 / 中止

- 【F6-Enter】 箱型単位での範囲選択状態「箱型選択中」に入ります。
- すでに範囲選択状態だった場合には、範囲選択を中止します。
- 箱型で選択された範囲は箱型カットバッファに移動またはコピーされます。
- 箱型カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル「mi\$bcut.txt」です。

機能番号 94：箱型カットバッファの内容をカーソル位置に箱型に挿入する

- 【F3-X-I】 箱型カットバッファの内容をカーソル位置に箱型に挿入します。
- なお、箱型カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル「mi\$bcut.txt」です。

機能番号 95：箱型カットバッファの内容をカーソル位置に箱型に上書きする

- 【F3-X-O】 箱型カットバッファの内容をカーソル位置に箱型に上書きします。
なお、箱型カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル
「mi\$bcut.txt」です。

機能番号 96：箱型カットバッファの内容をカーソル位置に文字列状に挿入する

- 【F3-X-S】 箱型カットバッファの内容をカーソル位置に文字列状に挿入します。
なお、箱型カットバッファの実体はワークディレクトリ上のファイル
「mi\$bcut.txt」です。

機能番号 97：現在位置からファイル比較を実行する

- 【F3-X-C】 スプリット表示中の2つのファイルに対して、現在のカーソル位置からファイルの
最後尾方向に向かってファイル内容と比較し、違いを見つけた位置にカーソルを
ジャンプさせ、ピープ音を鳴らします。
違いが見つからなかった場合には、ジャンプはせずにその旨のメッセージを表示し
ます。
なお、ピープ音は端末によっては鳴らない場合があります。

機能番号 98：次の行頭からファイル比較を実行する

- 【F3-X-N】 スプリット表示中の2つのファイルに対して、現在のカーソルのある次の行頭から
ファイルの最後尾方向に向かってファイル内容と比較し、違いを見つけた位置にカ
ーソルをジャンプさせます。そしてピープ音を鳴らします。違いが見つからなかつ
た場合には、ジャンプはせずにその旨のメッセージを表示します。
なお、ピープ音は端末によっては鳴らない場合があります。

機能番号 99：ライセンスキーを追加する

- 【F2-L】 体験版を製品版に変更したい時、製品版のライセンス数を追加したい時などに使用
します。
メガソフトから発行されたライセンスキーを入力して、ライセンスキーを追加でき
ます。
なお、現在のライセンスキー情報は、【編集ファイルの切り換え】メニュー
（〔F2〕キー）の下枠部分に表示されます。

機能番号 120 : 2 ストロークキー操作その 1

【Ctrl+Q】

2 ストロークキー操作の 1 ストローク目のキーにこの機能を定義します。

この機能で定義できるキーは次のとおりです。

- ・ [Ctrl] + [A] ~ [Ctrl] + [Z] キー
- ・ [Ctrl] + [@] キー
- ・ [Ctrl] + [[] キー ([Esc] キー)
- ・ [Ctrl] + [\] キー
- ・ [Ctrl] + []] キー
- ・ [Ctrl] + [^] キー
- ・ [Ctrl] + [_] キー

なお、[Ctrl] + [A] ~ [Ctrl] + [Z] キー以外はキーボード設定により、入力できない場合があります。

機能番号 121 : 2 ストロークキー操作その 2

機能番号 122 : 2 ストロークキー操作その 3

機能番号 123 : 2 ストロークキー操作その 4

機能番号 124 : 2 ストロークキー操作その 5

機能番号 125 : 2 ストロークキー操作その 6

以上の機能番号 121 ~ 125 は同じ内容です。

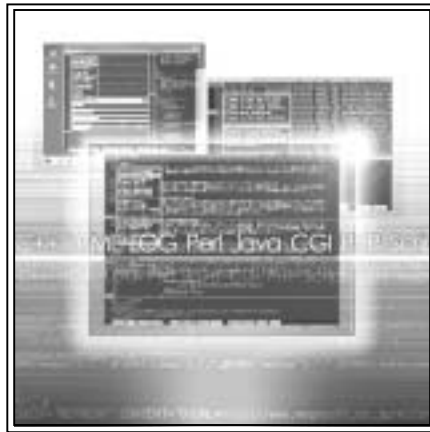
2 ストロークキー操作の 1 ストローク目のキーにこの機能を定義します。

この機能で定義できるキーは次のとおりです。

- ・ [Ctrl] + [A] ~ [Ctrl] + [Z] キー
- ・ [Ctrl] + [@] キー
- ・ [Ctrl] + [[] キー ([Esc] キー)
- ・ [Ctrl] + [\] キー
- ・ [Ctrl] + []] キー
- ・ [Ctrl] + [^] キー
- ・ [Ctrl] + [_] キー

なお、[Ctrl] + [A] ~ [Ctrl] + [Z] キー以外はキーボード設定により、入力できない場合があります。

付 録



MIFES for Linux のライセンスキーやユーザー登録、
ユーザーサポート、ライセンス販売など大切な情報に
ついて説明しています。

体験版について

ライセンスキーを入力しない場合は体験版として起動します。
体験版の使用期限は起動後 30 日間で、期限を過ぎるとファイル保管ができなくなります。
なお、体験版でのインストール方法、使用方法などについてのお問い合わせにはお答えしておりません。また、ご使用になって被られた直接的・間接的損害については弊社では一切補償いたしません。

ライセンスキーについて

MIFES をご正式にご利用いただくには、ライセンスキーが必要です。
体験版から製品版への移行や、ライセンスの追加などもライセンスキーを購入することで可能です。
ライセンスキーはインターネットでご購入いただけます。
メガソフトダイレクトショッピング
<https://shopping.megasoft.co.jp/shop/index.shtml>

ユーザーサポートについて

ユーザーサポートはホームページでのみ受け付けております。
お電話、FAX によるサポートはおこなっておりません。
なお、ホームページ上で最新情報やよくあるご質問（FAQ）などの情報提供を行っておりますので、ご利用ください。
また、サポートサービスを受けるにはユーザー登録が必要です。
MIFES サポートホームページ
<http://www.megasoft.co.jp/support/mifes/>
ユーザー登録ページ
<http://www.megasoft.co.jp/entry/regist.html>

使用許諾について

使用許諾契約書のファイル「license.txt」を同梱しています。
よくお読みいただき、ソフトウェアのご利用や管理を行っていただくようお願いいたします。

ライセンス販売のご案内

オフィスや学校でソフトウェアを複数導入される場合には、合理的で安価な追加ライセンスでのご購入をお勧めいたします。コストの削減と、管理の一元化、無断複製の解消にお役立てください。

ライセンスの数え方

MIFES をインストールするコンピュータ 1 台につき 1 ライセンスと数えます。
また、複数のユーザーが他のコンピュータなどから使用する場合は、同時に使用する最大人数分のライセンスが必要となります。

ご提供方法

メガソフトホームページで購入（オンラインで「ライセンスキー」のご購入）

メガソフトでは、ソフトウェアに登録するだけでライセンス数を増やすことができる「ライセンスキー」を販売しております。1 本からでもご購入いただけ、メールで即時にお届けできますので、必要なときすぐにお使いいただくことができます。

メガソフト ライセンス購入ページ

<https://shopping.megasoft.co.jp/shop/license.shtml>

販売店で購入（「ライセンスパック」のご購入）

ライセンス数に応じてディスカウントされた価格体系の、大量導入時にお得なご提供方法です。ライセンスパック申込書に必要事項をご記入の上、お近くの販売店様にお申込みください。

ライセンスパック購入申込書のページ

<http://www.megasoft.co.jp/milinux/license.html>

アカデミックパックは、個人でのご利用を対象としております。学校や教育機関などで複数ライセンスをお求めの場合は、ライセンスパックをご検討ください。
販売の内容、価格などは、予告なくする変更する場合があります。
詳しくはメガソフトのホームページをご覧ください。

アカデミックパック

学生および教職員の方で、個人でお求めの場合を対象にお求めやすい特別価格にて販売しています。

全国の大学生協や販売店またはメガソフトでもお求めいただけます。

ご購入の際は、学生証または身分証明書の提示が必要です。

アカデミックパック 価格 7,800 円（税別）

MIFES for Linux ユーザーズマニュアル

2003 年 8 月 22 日 初版発行

制 作：メガソフト株式会社

発行者：メガソフト株式会社

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 1-38 西谷東急ビル

TEL：06-6386-6810 FAX：06-6386-9983

著作権：MIFES for Linux(Console Type) Ver.1.0
Copyright © 2003 MEGASOFT Inc./S.W.

本製品のプログラムおよびマニュアルの複写、転載を禁止します。

MIFES はメガソフト株式会社の登録商標です。

その他すべての製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。